

小矢部市人口ビジョン

〈時点修正版〉

令和2年3月
小矢部市

目次

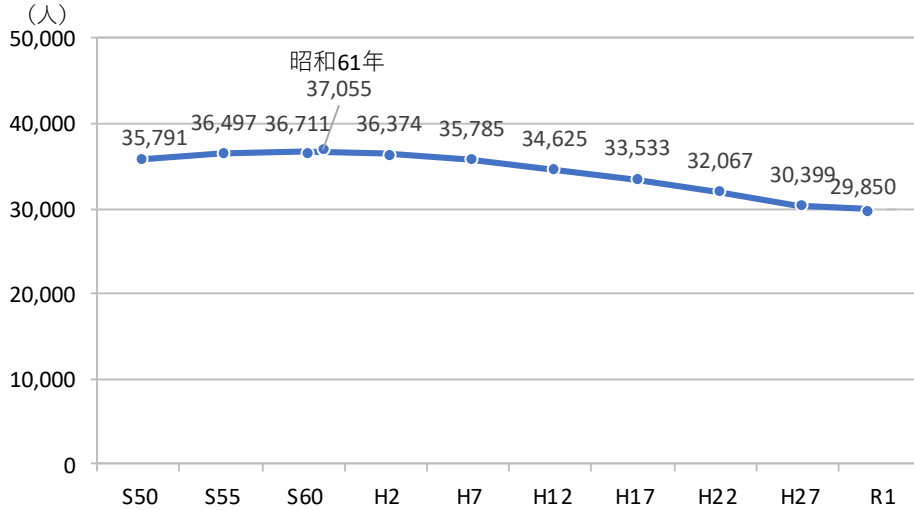
I 人口の現状分析.....	1
1 人口の推移	1
2 年齢別人口の状況	4
3 出生・死亡の推移	5
4 転入・転出の状況	6
5 従業・通学先の状況	7
6 年齢階級別の人口移動の状況	8
7 未婚率の状況	9
8 産業別就業者	10
9 外国人の転入・転出の状況	11
II 将来人口推計.....	12
1 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による推計.....	12
（1）人口推計結果	12
（2）人口減少が小矢部市の将来に与える影響.....	13
2 小矢部市における人口の現状や人口推計等からみる必要な視点.....	14
3 独自推計	15
（1）人口推計結果	15
（2）人口推計結果の比較	17
（3）地区別人口推計結果	18

I 人口の現状分析

1 人口の推移

総人口の推移をみると、昭和 61 年の 37,055 人をピークに年々減少し、令和元年には 29,850 人となっています。

■小矢部市の人口の推移



資料：国勢調査、人口移動調査及び住民基本台帳

■地区別の人口比較(平成 7 年・平成 27 年)

地区	平成 7 年 (人)	平成 27 年 (人)	増減率
石動	8,831	6,248	-29.2%
南谷	1,267	747	-41.0%
埴生	4,248	4,438	4.5%
松沢	2,890	3,142	8.7%
正得	1,353	1,376	1.7%
荒川	2,177	1,938	-11.0%
子撫	1,205	1,053	-12.6%
宮島	707	485	-31.4%
北蟹谷	1,714	1,337	-22.0%
若林	1,438	1,430	-0.6%
津沢	3,284	2,710	-17.5%
水島	2,257	1,762	-21.9%
藪波	2,189	1,979	-9.6%
東蟹谷	1,695	1,322	-22.0%
南部	530	432	-18.5%
計	35,785	30,399	-15.1%

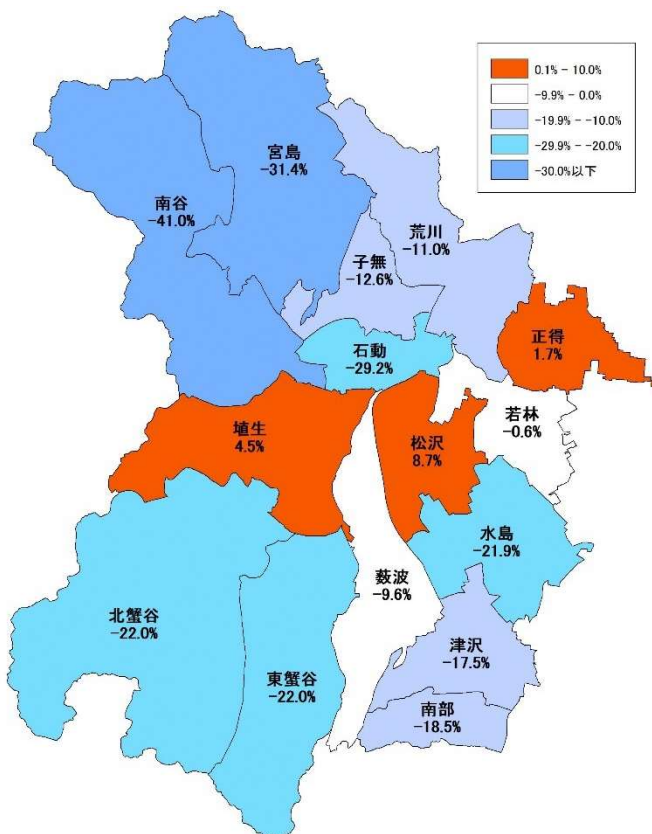
資料：国勢調査

平成7年と平成27年の地区別人口を比較すると、松沢地区で8.7%、埴生地区で4.5%、正得地区で1.7%増加していますが、それ以外の地区では減少しており、南谷地区は41.0%、宮島地区は31.4%、石動地区は29.2%減少しています。

地区別年少人口（0～14歳）比率（平成30年12月）は津沢地区（13.2%）や若林地区（12.3%）、南部地区（12.2%）が高く、宮島地区（4.5%）や南谷地区（5.2%）は低い状況になっています。

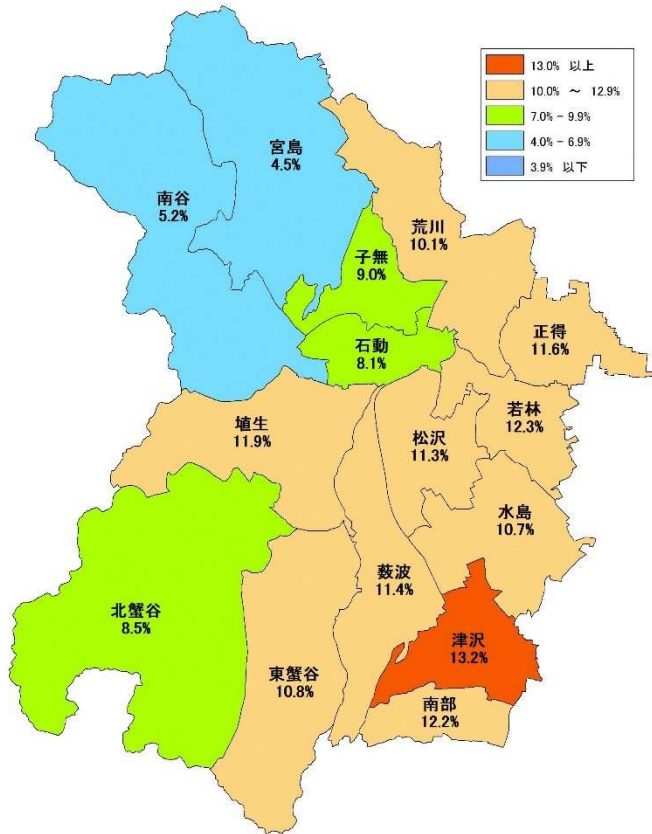
地区別高齢（65歳以上）化率は南谷地区（47.1%）や宮島地区（44.5%）、北蟹谷地区（41.8%）が高く、正得地区（27.6%）や埴生地区（28.8%）が低い状況になっています。

■小矢部市の地区別人口増減率（平成7年～平成27年）



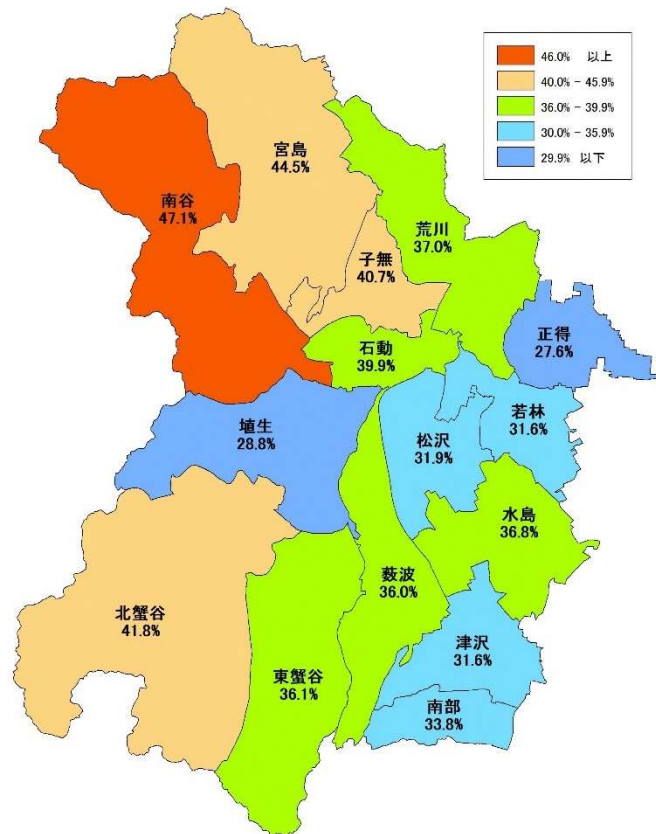
資料：国勢調査

■小矢部市の地区別年少人口（0～14歳）比率（平成30年12月末現在）



資料：住民基本台帳

■小矢部市の地区別高齢（65歳以上）化率（平成30年12月末現在）



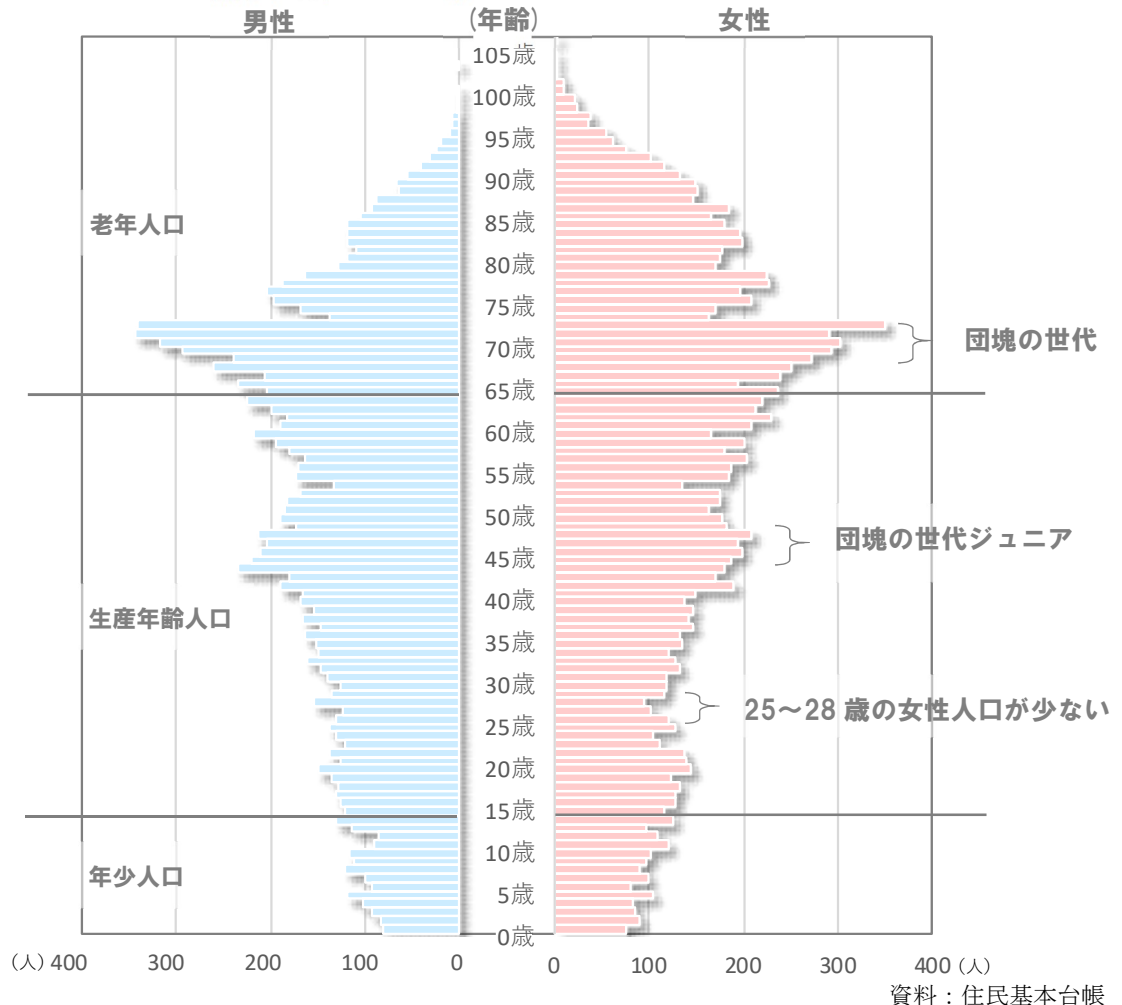
資料：住民基本台帳

2 年齢別人口の状況

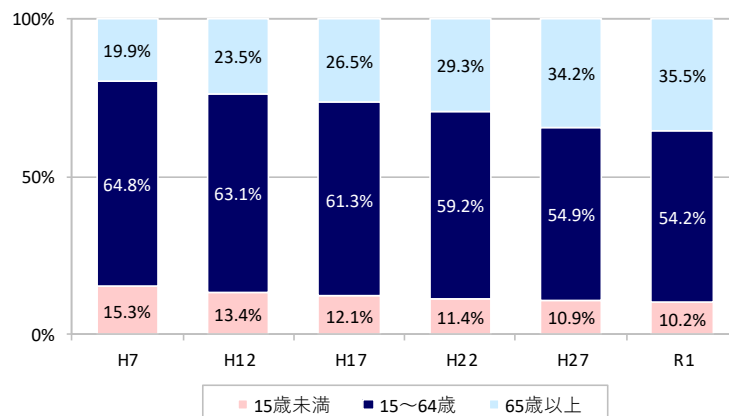
本市の人口構成をみると、男女とも 70 歳前後の団塊の世代、45 歳前後の団塊ジュニア世代の人口が多くなっています。一方、女性の 25～28 歳前後の人口が少なく、今後さらなる少子化が進み、生産年齢人口が急速に減少していくことが考えられます。

年齢 3 区分別人口割合の推移をみると、年少人口（0～14 歳）割合が平成 7 年の 15.3%から令和元年の 10.2%に減少している一方、老年人口（65 歳以上）割合は平成 7 年の 19.9%から令和元年の 35.5%に大幅に増加しており、少子高齢化が進行しています。

■小矢部市の人口ピラミッド（令和元年 10 月 1 日現在）



■年齢 3 区分別人口割合の推移



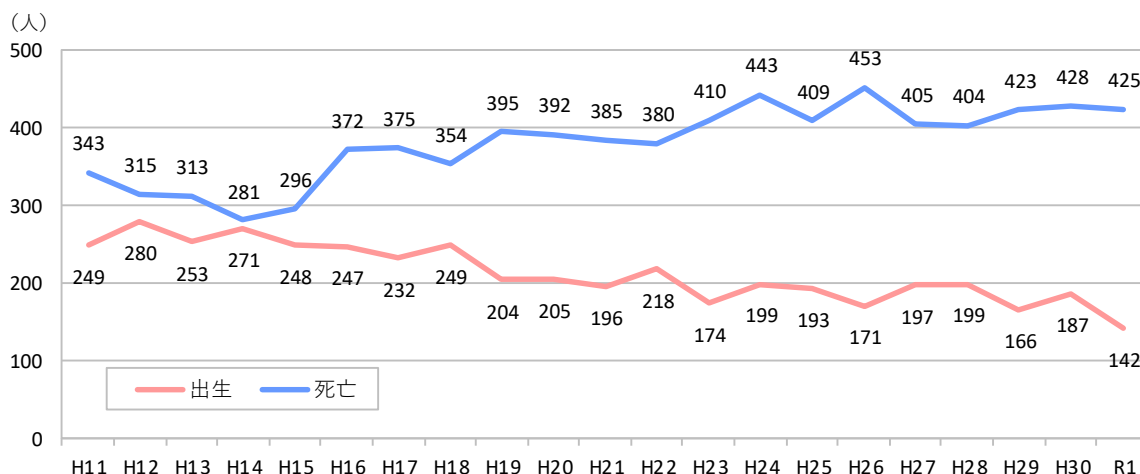
資料：国勢調査、住民基本台帳

3 出生・死亡の推移

出生数の推移は、平成 14 年以降減少傾向にあり、平成 23 年以降は横ばい傾向にあったが、令和元年は減少し 142 人となっています。一方で、死亡数は緩やかに増加しており、平成 23 年以降は 400 人を上回り令和元年は 425 人となっています。このような状況の中、自然減は拡大傾向にあり、令和元年は -283 人となっています。

合計特殊出生率の推移をみると、平成 20～24 年度は 1.38 と国や県とほぼ同水準ですが、人口を維持する水準である 2.07 を大きく下回っています。母の年齢階級別出生率(女性人口千対)をみるとほぼすべての年齢階級で国・県を下回っており、出生率を上げる必要があります。

■出生数・死亡数の推移



資料：住民基本台帳

■合計特殊出生率の推移

	平成 10 年度～ 平成 14 年度	平成 15 年度～ 平成 19 年度	平成 20 年度～ 平成 24 年度
小矢部市	1.39	1.40	1.38
富山県	1.42	1.35	1.39
全国	1.34	1.30	1.38

資料：人口動態統計

■母の年齢階級別出生率（女性人口千対、ベイズ推定値：平成 20 年～24 年）

	15～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳
小矢部市	2.5	33.6	95.9	97.6	39.3	6.1	0.3
富山県	2.9	36.9	98.3	98.5	41.8	6.8	0.2
全国	4.8	36.0	87.0	95.1	45.2	8.1	0.2

資料：人口動態統計

※ベイズ推定値：市区町村ごとの合計特殊出生率などの算出において、より広い地域の出生、死亡の状況を情報として活用することで、出生数や死亡数が少ない場合でも、より安定した数値をとるようにする推定方法

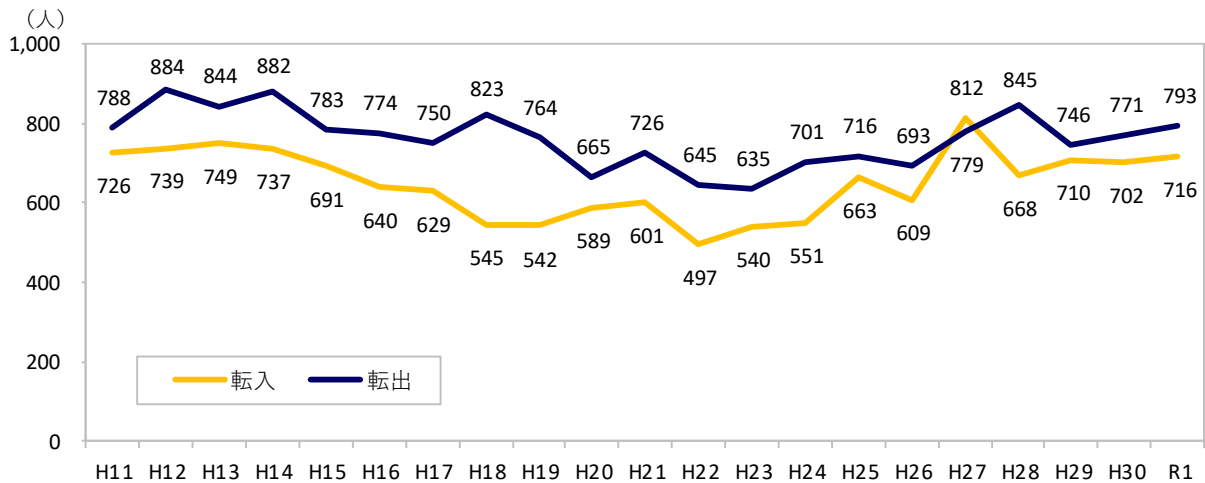
4 転入・転出の状況

転入・転出状況の推移をみると、転出超過が続いており、平成18年は278人の社会減でしたが、以降は社会減が減少し、平成27年に一時的に33人の社会増となるものの、平成28年以降転出超過となり、令和元年は77人の社会減となっています。平成22年～平成27年における転入・転出状況をみると、県内市町村間、県外間ともに転出超過となっています。小矢部市と県内市町村間の移動をみると、富山市へ98人、砺波市が57人と転出が大幅に上回るなど、81人の転出超過となっています。また、平成30年（平成29年10月～30年9月末）の県内市町村間との移動をみると、富山市へ51人、高岡市へ47人と転出が上回るなど、79人の転出超過となっており、転出超過が続いています。

小矢部市と県外との移動（平成22年～平成27年）をみると、305人の転出超過となっており、特に金沢市へ170人、津幡町へ48人転出するなど転出超過が大きくなっており、石川県全体で97人の転出超過となっています。また、首都圏や中京圏への転出も多くなっています。

通勤圏内である富山市や、金沢市、津幡町への転出を抑えるため、雇用の確保を図るとともに、他市町村へ就職したとしても小矢部市で住み続けられるような政策を検討していく必要があります。

■転入・転出の推移



資料：住民基本台帳

■小矢部市と県内市町村間の転入・転出【平成22年～平成27年】 ■小矢部市と県内市町村間の転入・転出【平成30年】

	転入	転出	社会増
富山市	112	210	△98
高岡市	305	359	△54
魚津市	11	15	△4
氷見市	54	34	20
滑川市	5	3	2
黒部市	5	7	△2
砺波市	200	257	△57
南砺市	196	101	95
射水市	81	71	10
舟橋村	0	1	△1
上市町	4	2	2
立山町	12	6	6
入善町	2	2	0
朝日町	0	0	0
計	987	1068	△81

	転入	転出	社会増
富山市	50	101	△51
高岡市	99	146	△47
魚津市	1	2	△1
氷見市	10	14	△4
滑川市	2	2	0
黒部市	1	2	△1
砺波市	91	63	28
南砺市	32	33	△1
射水市	25	26	△1
舟橋村	0	1	△1
上市町	1	0	1
立山町	2	1	1
入善町	0	2	△2
朝日町	0	0	0
計	314	393	△79

資料：国勢調査資料：富山県人口移動調査（平成29年10月1日～平成30年9月30日）

■小矢部市と県外間の転入・転出【平成22年～平成27年】

(単位：人)

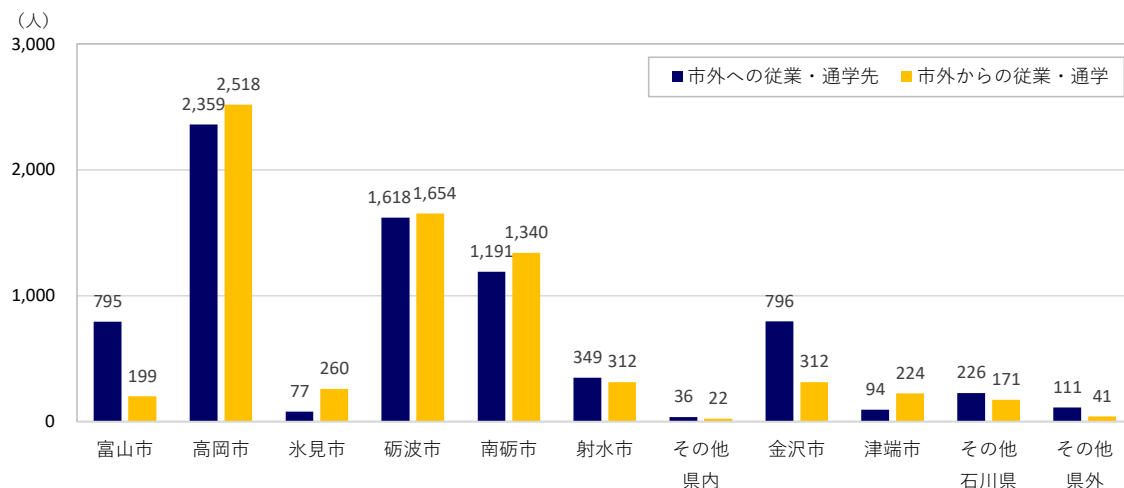
	転入	転出	社会増
北海道	2	16	△14
東北	9	20	△11
埼玉県・千葉県・神奈川県	87	95	△8
東京都	45	92	△47
その他首都圏	11	32	△21
新潟県・長野県	28	48	△20
石川県	224	321	△97
（うち金沢市）	125	170	△45
（うち津幡町）	20	48	△28
福井県	14	34	△20
愛知県	57	76	△19
その他東海（静岡県・岐阜県・三重県）	35	44	△9
大阪府	33	33	0
その他関西	44	77	△33
中国・四国	12	16	△4
九州・沖縄県	15	17	△2
県外計	616	921	△305

資料：国勢調査

5 従業・通学先の状況

小矢部市の市外の従業・通学先は、高岡市へ2,359人、砺波市へ1,618人、南砺市へ1,191人、金沢市へ796人、富山市へ795人となっています。市外から小矢部市へは高岡市から2,518人、砺波市から1,654人、南砺市から1,340人となっています。

■従業・通学先(平成27年)



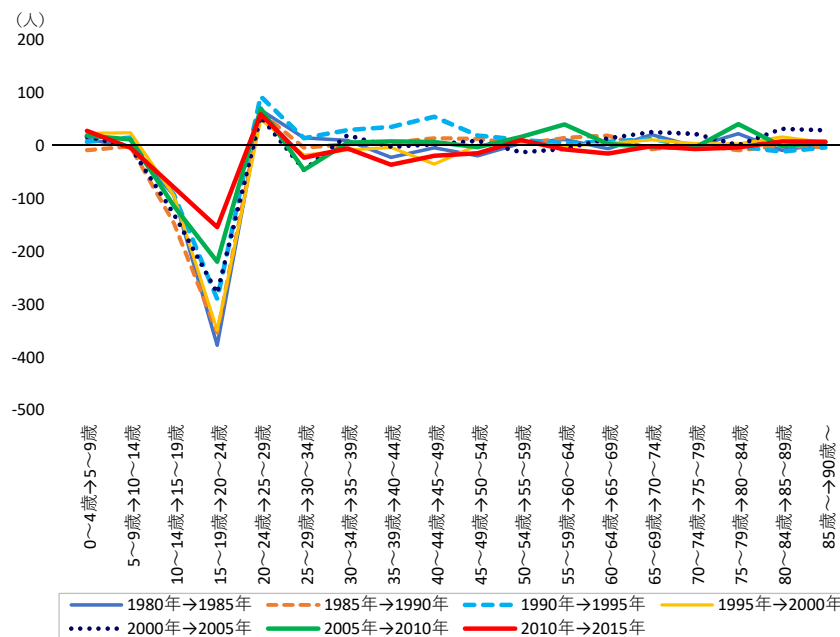
資料：国勢調査

6 年齢階級別の人口移動の状況

年齢階級別の人口移動の状況をみると、男女ともに、10～14歳が15～19歳になるときと15～19歳が20～24歳になるときに転出超過となっています。また、男女ともに、20～24歳が25～29歳からになるときに転入超過となっています。ただ、転出超過に比べ転入超過は少なく、若い世代の流出が深刻な状況にあります。

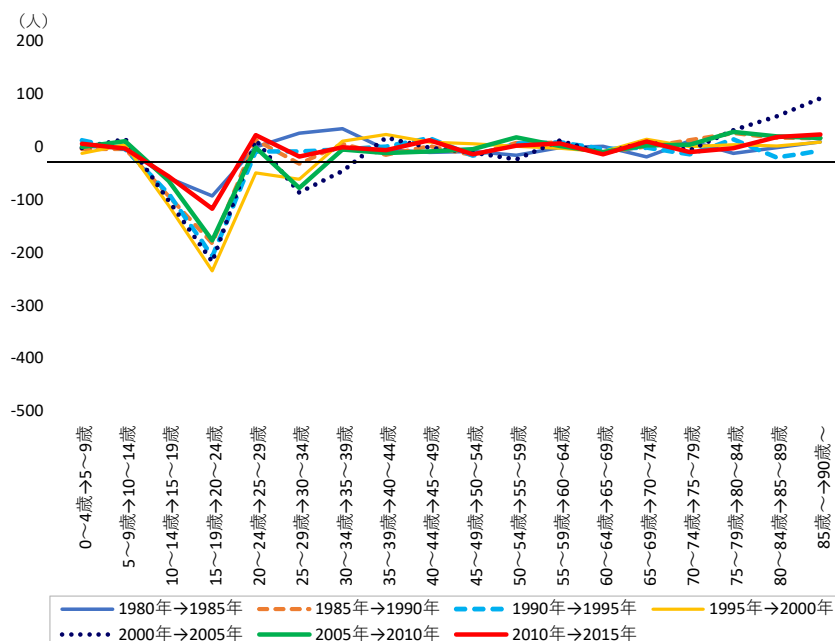
小矢部市内には大学・短大・専門学校などがいないため、高校卒業後の大学等への進学で転出するのはやむをえない状況にあります。また、大学等卒業後に小矢部市へUターン就職できるよう、就業先の受け皿の確保が必要です。

■年齢階級別人口移動の推移(男性)



資料：国立社会保障・人口問題研究所データ

■年齢階級別人口移動の推移(女性)

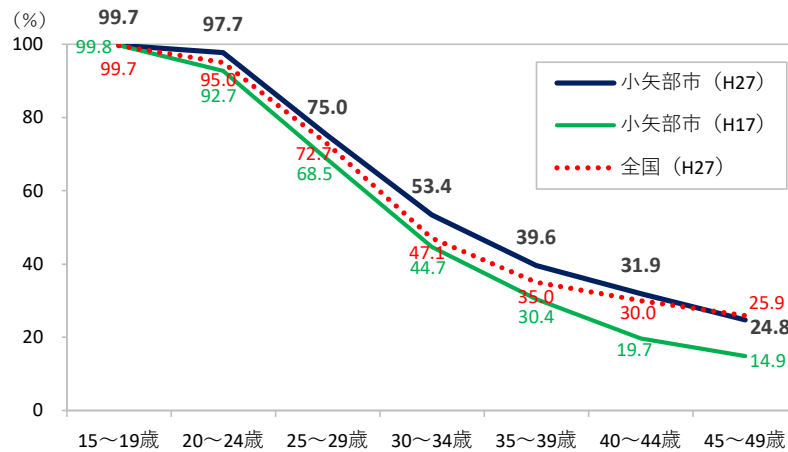


資料：国立社会保障・人口問題研究所データ

7 未婚率の状況

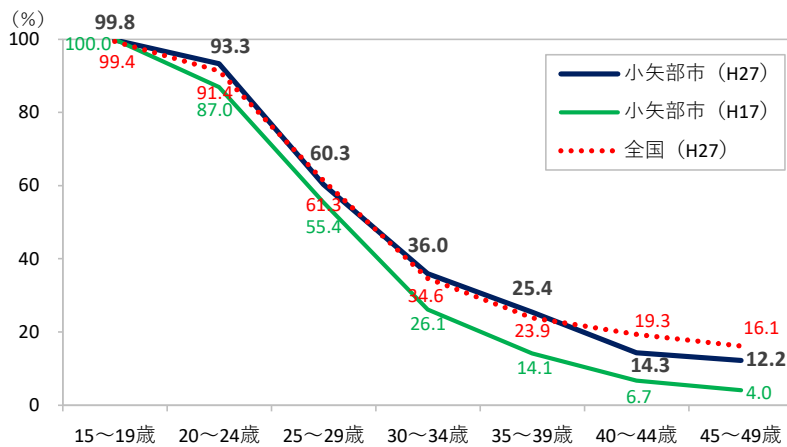
未婚率の状況を見ると、男性は25～29歳で75.0%、30～34歳で53.4%、35～39歳で39.6%となっており、平成17年と比べて大きく上昇し、全国と比べてもやや高くなっています。女性は25～29歳で60.3%、30～34歳で36.0%、35～39歳で25.4%となっており、平成17年と比べて大きく上昇しています。出生率向上のためにも、未婚率の改善に向けたさらなる取組が求められます。

■年齢別未婚率（男性）



資料：国勢調査

■年齢別未婚率（女性）



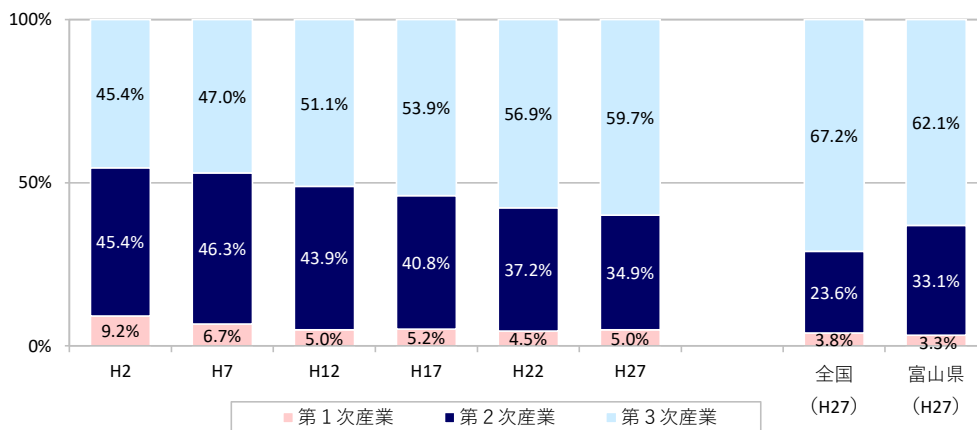
資料：国勢調査

8 産業別就業者

産業別就業者構成比の推移をみると、第1次産業は平成2年の9.2%から平成27年の5.0%、第2次産業は平成2年の45.4%から平成22年の34.9%と低下していますが、第3次産業は平成2年の45.4%から平成27年の59.7%と上昇しており、第1次産業、第2次産業から第3次産業への移行がみられます。全国・県と比較すると第1次産業と第2次産業の比率が高く、第3次産業の比率が低くなっています。

男女別産業大分類別人口をみると、男女とも製造業が多く、特化係数は男性が1.40、女性が1.96となっています。その他、産業大分類別人口は男女ともに卸売業、小売業が多く、男性は建設業、女性は医療、福祉が多くなっています。特化係数は建設業や複合サービス事業などが高く、情報通信業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業などが低くなっています。

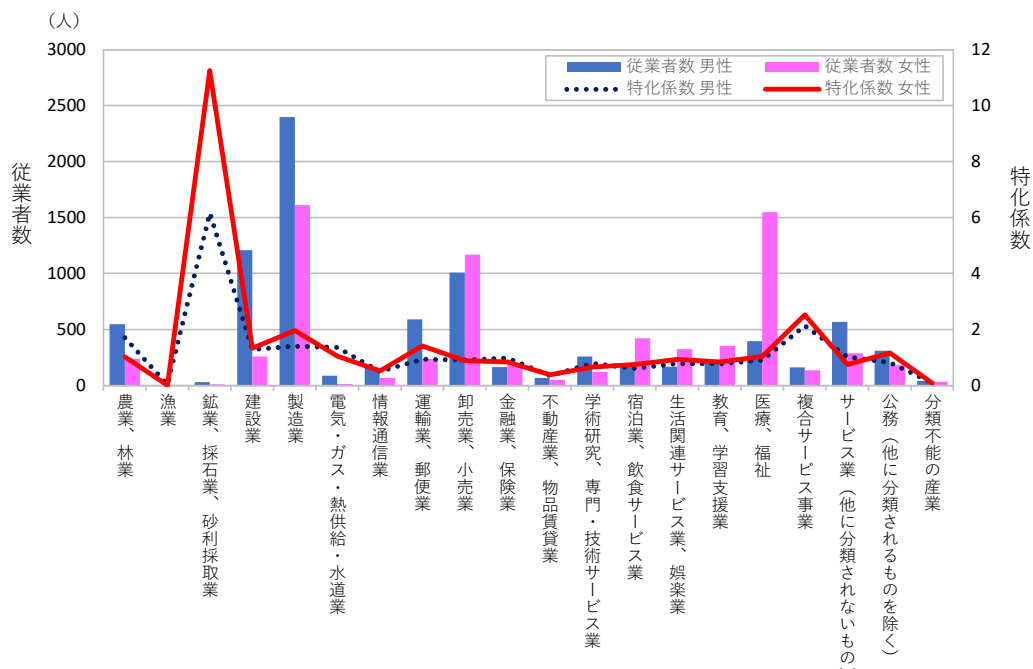
■産業別就業者構成比の推移



※分類不能もあるため、合わせても100%にはならない場合もある

資料：国勢調査

■男女別産業大分類別人口と特化係数（平成27年）



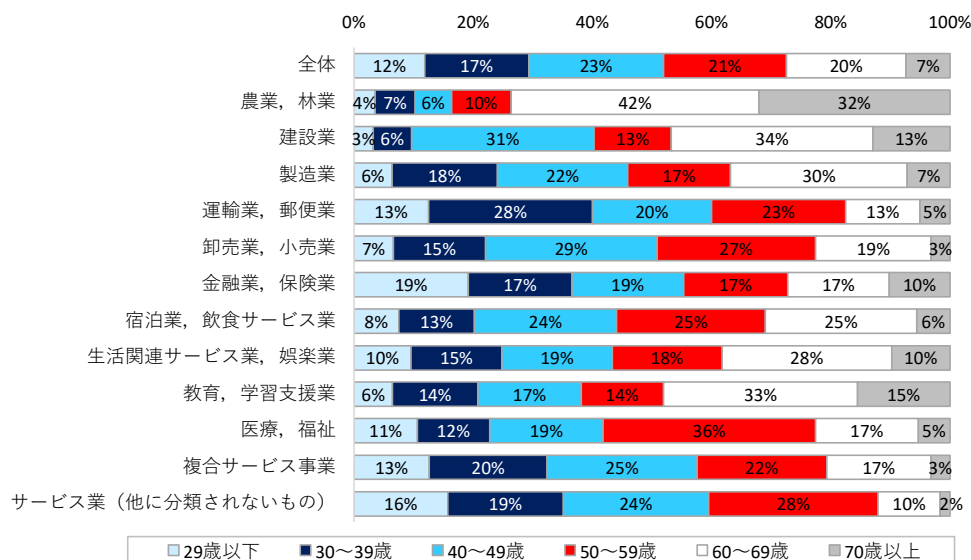
※特化係数：小矢部市の各産業の就業者比率/全国の各産業の就業者比率

資料：国勢調査

主な産業別の年齢階級別人口をみると、農林業において、60歳以上が約7割を占めており、高齢化が進行しています。また、教育、学習支援業、建設業、生活関連サービス業、娯楽業、製造業で60歳以上の割合が高くなっています。

農林業、建設業においては、39歳以下が約1割と少なく、今後のさらなる高齢化の進展によって、急速に就業者数が減少することが予測されます。このことから、若者の新規就業や担い手の育成など、新たな就業者の確保を目指していく必要があります。

■年齢階級別産業人口



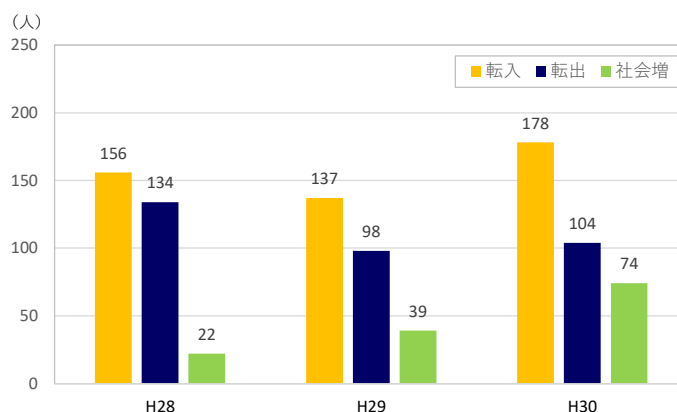
資料：国勢調査

9 外国人の転入・転出の状況

外国人の転入・転出状況の推移をみると、外国人の転入者が平成28年は156人、平成29年は137人、平成30年は178人と多くなっており、転出が平成28年は134人、平成29年は98人、平成30年は104人と転入超過が続いています。外国人の社会増をみると、平成28年は22人、平成29年は39人、平成30年は74人と年々増えており、外国人住民数が増えています。

外国人住民数が増える中、異なる文化や生活習慣を持つ人々が共に認め合い暮らしやすい地域を築くことを目指していく必要があります。

■外国人の転入・転出の推移



※H28：平成27年10月1日～平成28年9月30日、H29：平成28年10月1日～平成29年9月30日、H30：平成29年10月1日～平成30年9月30日

資料：富山県人口移動調査

Ⅱ 将来人口推計

1 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による推計

(1) 人口推計結果

① 概要

主に平成 22 年(2010 年)から平成 27 年(2015 年)の人口の動向を勘案し、令和 47 年(2065 年)までの将来の人口を推計します。

<出生に関する仮定>

原則として、平成 27 年(2015 年)の全国の子ども女性比(15～49 歳女性人口に対する 0～4 歳人口の比)と小矢部市の子ども女性比との比をとり、その比が令和 2 年(2020 年)以降、令和 47 年(2065 年)まで一定として市町村ごとに仮定します。

<死亡に関する仮定>

原則として、55～59 歳→60～64 歳以下では、全国と都道府県の平成 22 年(2010 年)から平成 27 年(2015 年)までの生残率の比から算出される生残率を都道府県内市区町村に対して一律に適用します。60～64 歳→65～69 歳以上では、上述に加えて、都道府県と市区町村の平成 12 年(2000 年)から平成 22 年(2010 年)までの生残率の比から算出される生残率を市区町村別に適用します。

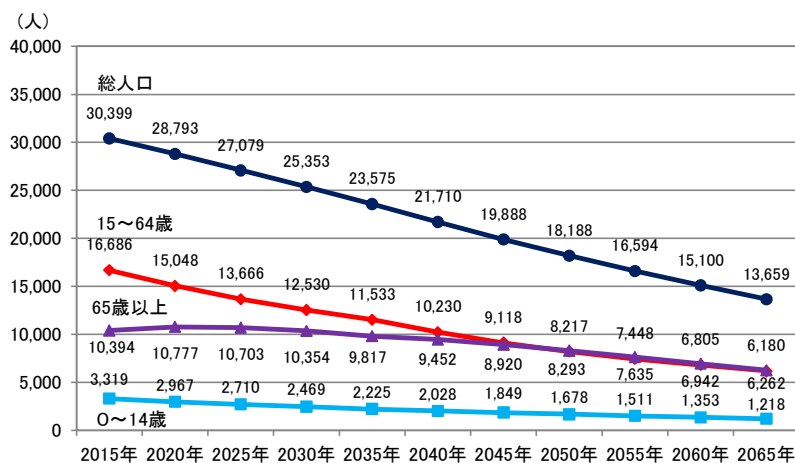
<移動に関する仮定>

原則として、平成 22 年(2010 年)から平成 27 年(2015 年)の国勢調査（実績）等に基づいて算出された移動率が、令和 22 年(2040 年)以降継続すると仮定します。

② 推計人口

総人口は、令和 27 年(2045 年)には 19,888 人、令和 47 年(2065 年)には 13,659 人と推計されます。平成 27 年(2015 年)人口と令和 27 年(2045 年)の推計を比較すると、0～14 歳は約 44%、15～64 歳は約 45%、65 歳以上は約 14%減少すると推計されます。また、平成 27 年(2015 年)人口と令和 47 年(2065 年)の推計を比較すると、0～14 歳は約 63%、15～64 歳は約 63%、65 歳以上は約 40%減少すると推計されます。また、令和 32 年(2050 年)以降、65 歳以上人口が 15～64 歳人口を上回ると推計されます。

■ 推計人口(社人研)



※推計人口は小数点第 1 位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値と異なる場合や超える場合があります。

(2)人口減少が小矢部市の将来に与える影響

① 地域経済への影響

生産年齢人口（15歳～64歳）が減少すると市内就業者が減少し、併せて所得も減少するなど、地域経済規模が縮小することが懸念されます。その結果、雇用も減少し、さらなる人口減少を生み出すなど、地域全体に負の連鎖を引き起こす恐れがあります。

特に、農林業及び建設業においてはさらなる高齢化の進展によって、急速に就業者数が減少することが予測され、担い手不足となる危険性があります。さらに、人口規模の縮小に伴い地域内消費が減退し、スーパーや飲食店などが撤退することが懸念されるとともに、中心市街地では商店主の高齢化と後継者不在による廃業が進み、それによって空き店舗が増加するなど、市の賑わいの消失や日常生活の利便性の低下が懸念されます。

②市民生活への影響

人口減少により、中山間地域などにおいては集落の消滅が懸念されるとともに、各地域ではコミュニティの維持が困難になり、地域の支え合い体制が弱まるとともに、地域の伝統や文化の継承が困難になる危険性があります。また、人口が減少する一方で世帯数や総住宅数は減少しておらず、高齢者単居世帯が増加するとともに、空き家が増加し、適正な維持管理ができなくなる恐れがあります。

社人研推計によると、年少人口（0～14歳）は平成27年（2010年）と比べ、令和47年（2065年）には約4割まで落ち込むものと推計され、現状の保育所や小中学校の維持が困難になるものと予測されます。さらに、人口減少で通勤通学者が減少することにより、地域公共交通が維持できなくなり、特に自家用車を運転できない高齢者や学生の移動が困難になる恐れがあります。

③行財政運営への影響

歳入においては生産年齢人口の減少とそれに伴う地域経済規模の減少などにより、市税収入の減少が予測される一方、歳出においては高齢化の進行により社会保障関連経費等の扶助費が増加し、一人当たりの負担が増大するなど、財政運営が一層厳しくなることが予測されます。

また、既存の公共施設の老朽化に伴う維持管理費の増嵩に加え、市が平成29年3月に策定した「小矢部市公共施設等総合管理計画」では、現在保有する施設を同規模で更新した場合の今後30年間の更新費用は368.5億円と試算されており、現状の全ての公共施設を適正に維持管理していくことが財政的に困難であると予測されます。

さらに、人口減少に伴い、公共施設や公共サービスの効率化が求められることとなり、これまでのサービス水準の維持が困難になるものと予測されます。

2 小矢部市における人口の現状や人口推計等からみる必要な視点

人口動態は「自然動態（出生－死亡）＋社会動態（転入－転出）」で表され、それぞれの視点から、対策を検討していきます。

① 自然動態からの視点

出生数が年々減少しており、出生率や社会動態が、このまま推移すると、令和 27 年（2045 年）には総人口は約 35%減少し、年少人口は約 44%減少すると推計されます（社人研推計）。さらに令和 47 年（2065 年）には総人口が約 55%減少、年少人口は約 63%減少する恐れがあります。

人口推計からも、出生率を上げること、特に、年齢階級別出生率の高い 25～34 歳前後の女性の数を減らさないようにすることで、人口減少は抑えられると考えられます。未婚率の低下を図るとともに、晩婚化を防ぐための対策の検討が求められます。また、1 人の女性が産む子どもの人数を増やすことができるよう、縁結びさんを中心とする結婚支援、妊娠・出産、子育てへの支援を継続的に行い、出生率を高める必要があります。

高齢者人口が長期的には減少することが予測されており、健康寿命の延伸に向けた取組みについて検討していく必要があります。高齢者の生きがいづくり、健康づくりの推進などによる生涯現役の地域づくりを進め、健康寿命の延伸が求められます。

② 社会動態からの視点

転出が転入を上回る社会減が続いていましたが、アウトレットモール開業の平成 27 年度に一時的に社会増に転じました。しかし、平成 28 年度以降は再び転出超過が続いています。今後、転入超過を安定的に維持していく傾向へと転換していく必要があります。

高校を卒業し、大学進学や就職により、小矢部市から転出する世代である 15～19 歳の転出超過を抑制していく必要があります。小学生の頃から地域愛を高める教育を行うとともに、中学生、高校生の段階で市内企業への就職イメージの形成を図ることで、富山県内、石川県内等への進学率を高めていくことが求められます。また、富山市、高岡市、金沢市の大学、専門学校への進学率を高めることにより、自宅から通学できる学生を増やし、転出を抑制していく必要があります。

大学、専門学校を卒業し、就職するタイミングであり U ターンが多い世代である 20～24 歳の転入を促進していくことが求められます。地域愛の醸成、市内企業への就職イメージの形成とともに、奨学金返還助成により、経済面での支援も進め U ターンを促進するとともに、I ターンに関しては、県内や石川県の大学との連携事業により本市への関心を高めていく必要があります。また、アウトレットモールへの就職を機に、小矢部に住む人 U I ターンの増加を図ることが求められます。

結婚、就職、転職、退職等ライフステージの変化を機に転入者を増やしていく必要があります。結婚をタイミングとする転入に対しては、住宅取得助成、賃貸住宅家賃助成等により住居の確保を支援することが求められます。高岡市、南砺市、金沢市等の周辺市町村をターゲットに、宅地開発や交通の利便性を発信し、移住の促進を図る必要があります。また、首都圏等からの移住に関しては、シティプロモーション戦略を核に、おやべ暮らしの魅力発信、県のマッチングサイトの活用、移住支援金等により転入促進が求められます。

近年、外国人住民数が増えおり、引き続き外国人住民数の増加を見込まれます。継続的な外国人住民増加に向けて、異なる文化や生活習慣を持つ人々が共に認め合い暮らしやすい地域を築くことを目指していく必要があります。

3 独自推計

(1) 人口推計結果

① 概要

移動については社人研推計を基に、若者の転出抑制や転入促進による社会増、外国人住民増加を見込みます。合計特殊出生率は段階的に上昇を図ります。

< 出生に関する仮定 >

社人研では、国勢調査における過去数十年間の動向を基に、今後の出生率は横ばいで推移すると推計していますが、独自調査においては各種施策の効果により段階的に出生率の上昇が図られると仮定します。

合計特殊出生率は令和 2 年（2020 年）から令和 11 年（2029 年）までは 1.6、令和 12 年（2030 年）から令和 21 年（2039 年）までは 1.9、令和 22 年（2040 年）以降は 2.07 と仮定します。

< 死亡に関する仮定 >

社人研推計と同様とします。

< 移動に関する仮定 >

【純移動率（人口に対する転入転出割合）の仮定】

純移動率は、社人研推計を基に、若者の転出抑制や転入促進による社会増を図ります。純移動率を年代別に仮定します。

- 15～19 歳の純移動率（転出超過）を転出抑制により転出が軽減すると仮定します。

令和 3 年（2021 年）～令和 12 年（2030 年）は転出を重点的に抑制します（社人研推計値の 1 / 4 水準）。令和 13 年（2031 年）～令和 17 年（2035 年）は転出を抑制します（社人研推計値の 1 / 2 水準）。令和 18 年（2036 年）以降は転出を抑制します（社人研推計値の 2 / 3 水準）。

- 20～24 歳の純移動率（転入超過）を転入促進により増加すると仮定します。

令和 3 年（2021 年）～令和 12 年（2030 年）は転入を重点的に促進します（男性：社人研推計値の 2.5 倍、女性：社人研推計値の 3.0 倍）。令和 13 年（2031 年）～令和 17 年（2035 年）は転入を促進します（社人研推計値の 1.5 倍）。令和 18 年（2036 年）以降は社人研推計と同水準を維持します。

- 5～14 歳、25～49 歳の転出超過の年代に対し転出抑制を図ると仮定します。

令和 7 年（2025 年）以前は段階的に転出を抑制します。令和 8 年（2026 年）以降は転入転出の均衡を維持します（移動率をゼロと想定します）。

※但し、転入超過の年代は社人研推計値を用います。

【移動数（外国人）の仮定】

外国人住民の増加を見込みます。

- 令和 12 年（2030 年）まで外国人住民が増加すると仮定します。

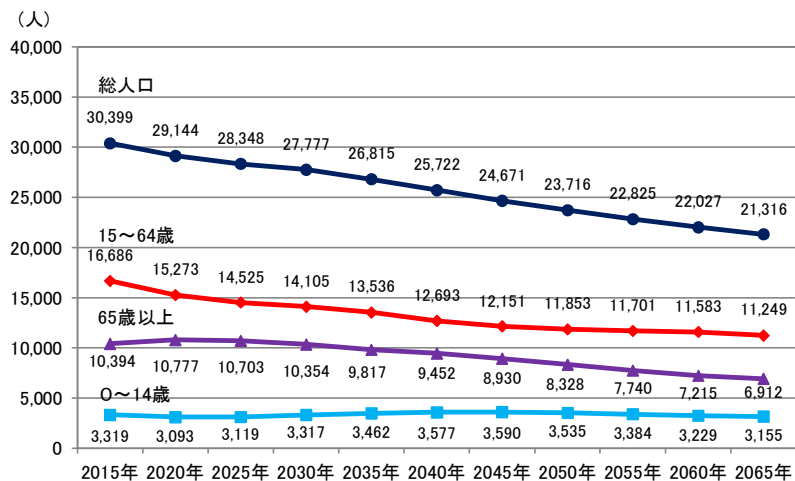
令和 12 年（2030 年）以前は年間 40 人増加を見込みます。

※2016 年～2018 年の 3 年間の外国人社会増より算定。

②推計人口

総人口は、令和 27 年(2045 年)には 24,671 人、令和 47 年(2065 年)には 21,316 人と推計されます。平成 27 年(2015 年)人口と令和 27 年(2045 年)の推計を比較すると、0～14 歳は約 8%増加、15～64 歳は約 27%減少、65 歳以上は約 14%減少と推計されます。また、平成 27 年(2015 年)人口と令和 47 年(2065 年)の推計を比較すると、0～14 歳は約 5%減少、15～64 歳は約 33%減少、65 歳以上は約 34%減少するものと推計されます。

■推計人口(独自推計)



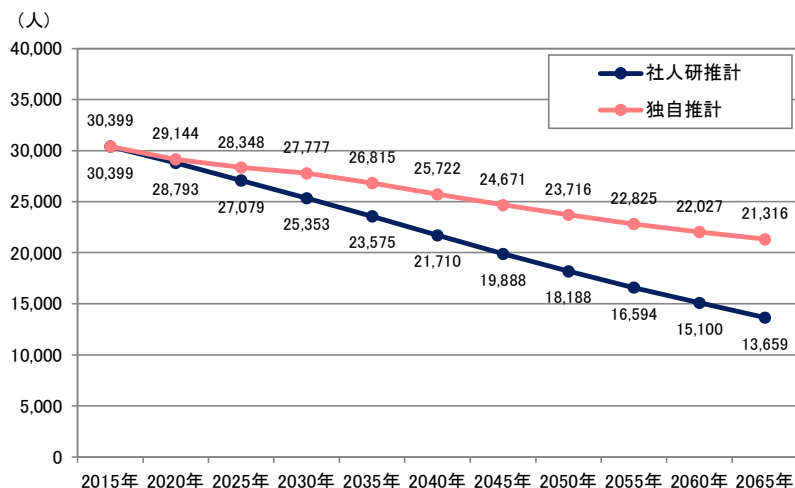
※推計人口は小数点第 1 位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

(2)人口推計結果の比較

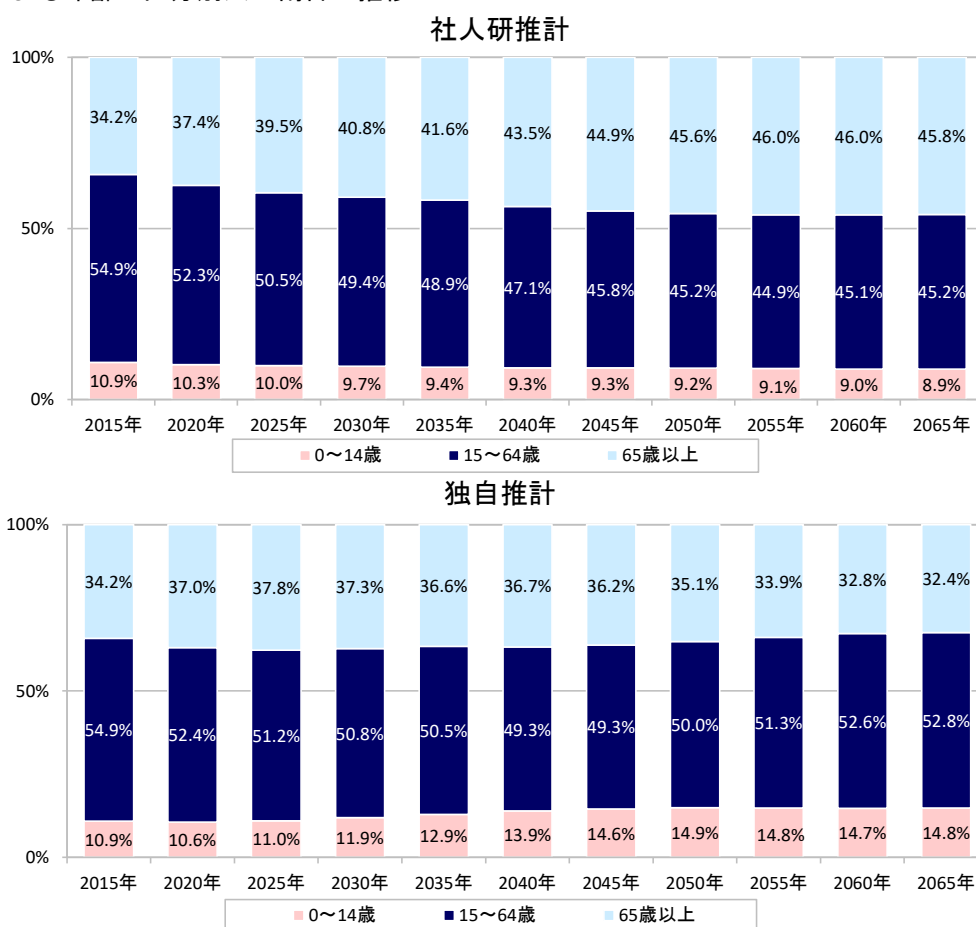
人口予測を行った結果、令和47年（2065年）の人口は社人研推計が13,659人、独自推計が21,316人という推計結果になっており、約7,700人の開きがあります。

また、女性の14～49歳の人口は、令和47年（2065年）の推計結果で、社人研推計が1,813人、独自推計が3,625人になっており、独自推計は社人研推計の約2倍の値となっています。

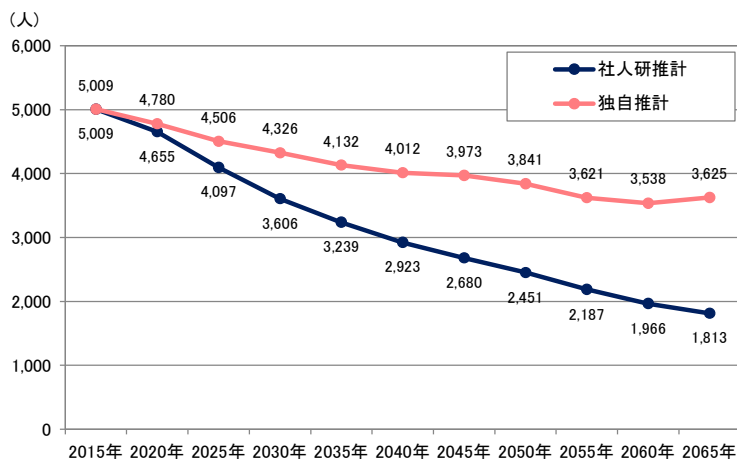
■人口推計結果の比較(総人口)



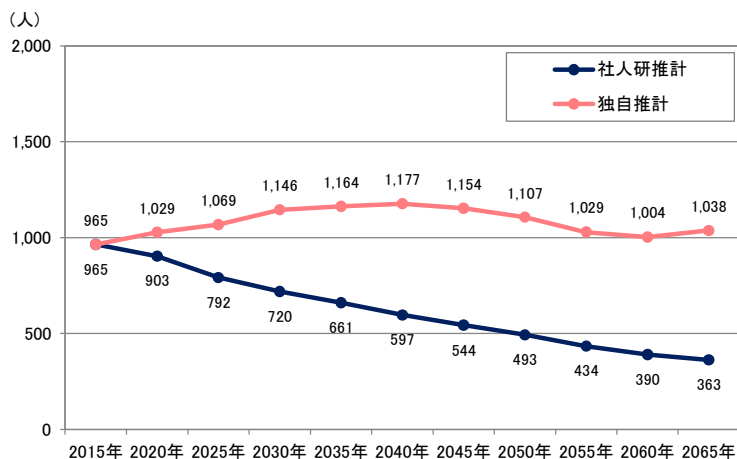
■人口推計による年齢3区分別人口割合の推移



■人口推計結果の比較(女性 15～49 歳人口)



■人口推計結果の比較(0～4 歳人口)



(3) 地区別人口推計結果

①概要

地区別人口推計は、＜出生に関する仮定＞、＜死亡に関する仮定＞及び＜移動に関する仮定＞を独自推計と同様の条件設定と仮定して推計します。なお、平成 27 年の地区別人口は、平成 27 年 10 月 1 日現在の人口です。

また、比較対象として参考で掲載する社人研推計の地区別人口は、＜出生に関する仮定＞、＜死亡に関する仮定＞及び＜移動に関する仮定＞を社人研推計と同様の条件設定と仮定して推計します。

②推計人口

小矢部市の推計人口は令和 27 年(2045 年)に 24,671 人、地区別にみると、最も多い石動地区で 4,737 人、次いで埴生地区が 3,810 人となっています。平成 27 年(2015 年)人口と令和 27 年(2045 年)の推計を比較すると、どの地区も減少しており、特に南谷地区(-35.6%)や宮島地区(-33.0%)の減少率が高い状況です。また、小矢部市の推計人口は令和 47 年(2065 年)に 21,316 人、最も多い石動地区で 3,987 人、次いで埴生地区が 3,319 人となっています。平成 27 年(2015 年)人口と令和 47 年(2065 年)の推計を比較すると、3 割以上減少する地区が 7 地区あり、特に南谷地区(-49.9%)や宮島地区(-46.0%)の減少率が高い状況です。

■小矢部市の地区別推計人口(独自推計)

(単位：人)

	平成 27 年 (2015 年)	令和 2 年 (2020 年)	令和 7 年 (2025 年)	令和 12 年 (2030 年)	令和 17 年 (2035 年)	令和 22 年 (2040 年)	令和 27 年 (2045 年)
石動	6,315	5,987	5,732	5,528	5,261	4,985	4,737
南谷	837	774	726	680	634	584	538
埴生	4,303	4,190	4,147	4,130	4,044	3,926	3,810
松沢	2,857	2,788	2,753	2,733	2,667	2,581	2,496
正得	1,435	1,392	1,375	1,380	1,362	1,338	1,312
荒川	1,961	1,903	1,872	1,855	1,803	1,740	1,679
子撫	1,097	1,030	981	948	905	857	812
宮島	504	466	440	416	390	363	338
北蟹谷	1,353	1,265	1,198	1,141	1,080	1,020	961
若林	1,488	1,436	1,405	1,383	1,341	1,295	1,250
津沢	2,648	2,566	2,528	2,508	2,443	2,365	2,289
水島	1,818	1,732	1,670	1,620	1,546	1,462	1,377
藪波	1,952	1,862	1,819	1,792	1,734	1,666	1,601
東蟹谷	1,375	1,318	1,279	1,251	1,207	1,156	1,101
南部	456	436	422	411	397	384	370
小矢部市	30,399	29,144	28,348	27,777	26,815	25,722	24,671
	令和 32 年 (2050 年)	令和 37 年 (2055 年)	令和 42 年 (2060 年)	令和 47 年 (2065 年)	2015 年 →2045 年	2015 年 →2065 年	
石動	4,514	4,303	4,126	3,987	-1,578 (-25.0%)	-2,328 (-36.9%)	
南谷	497	462	437	419	-298 (-35.6%)	-418 (-49.9%)	
埴生	3,684	3,556	3,431	3,319	-494 (-11.5%)	-985 (-22.9%)	
松沢	2,419	2,348	2,285	2,221	-361 (-12.6%)	-636 (-22.3%)	
正得	1,281	1,245	1,212	1,180	-123 (-8.6%)	-255 (-17.8%)	
荒川	1,630	1,578	1,527	1,480	-282 (-14.4%)	-481 (-24.5%)	
子撫	775	743	715	688	-286 (-26.0%)	-410 (-37.3%)	
宮島	314	295	282	272	-166 (-33.0%)	-232 (-46.0%)	
北蟹谷	909	864	825	796	-392 (-29.0%)	-557 (-41.2%)	
若林	1,210	1,164	1,123	1,084	-238 (-16.0%)	-405 (-27.2%)	
津沢	2,222	2,162	2,103	2,045	-358 (-13.5%)	-603 (-22.8%)	
水島	1,302	1,240	1,187	1,140	-441 (-24.2%)	-678 (-37.3%)	
藪波	1,544	1,495	1,446	1,399	-351 (-18.0%)	-553 (-28.3%)	
東蟹谷	1,055	1,017	987	954	-275 (-20.0%)	-421 (-30.6%)	
南部	360	351	342	333	-85 (-18.7%)	-122 (-26.9%)	
小矢部市	23,716	22,825	22,027	21,316	-5,728 (-18.8%)	-9,083 (-29.9%)	

※平成 27 年の地区別人口は、平成 27 年 10 月 1 日現在の人口です。

※推計人口は小数点第 1 位を四捨五入しました。したがって、地区別推計人口の合計値が小矢部市全体の推計人口の値と異なる場合や超える場合があります。

■【参考】小矢部市の地区別推計人口(社人研推計)

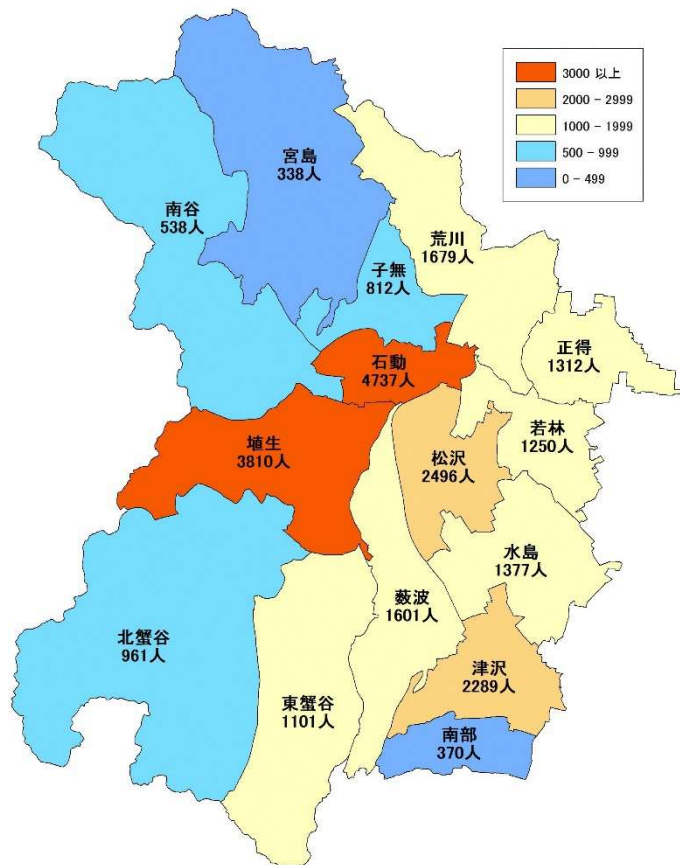
(単位：人)

	平成 27 年 (2015 年)	令和 2 年 (2020 年)	令和 7 年 (2025 年)	令和 12 年 (2030 年)	令和 17 年 (2035 年)	令和 22 年 (2040 年)	令和 27 年 (2045 年)
石動	6,315	5,917	5,488	5,073	4,653	4,228	3,834
南谷	837	766	699	632	570	505	445
埴生	4,303	4,134	3,941	3,737	3,523	3,285	3,049
松沢	2,857	2,752	2,630	2,495	2,344	2,179	2,015
正得	1,435	1,373	1,302	1,241	1,176	1,108	1,038
荒川	1,961	1,878	1,782	1,684	1,575	1,456	1,341
子撫	1,097	1,019	943	874	806	734	665
宮島	504	460	421	382	346	307	271
北蟹谷	1,353	1,250	1,147	1,046	956	867	780
若林	1,488	1,420	1,344	1,263	1,180	1,097	1,014
津沢	2,648	2,536	2,412	2,280	2,137	1,987	1,836
水島	1,818	1,714	1,605	1,493	1,376	1,253	1,131
藪波	1,952	1,841	1,737	1,634	1,523	1,404	1,287
東蟹谷	1,375	1,302	1,224	1,145	1,063	979	889
南部	456	430	402	373	347	320	294
小矢部市	30,399	28,793	27,079	25,353	23,575	21,710	19,888
	令和 32 年 (2050 年)	令和 37 年 (2055 年)	令和 42 年 (2060 年)	令和 47 年 (2065 年)	2015 年 →2045 年	2015 年 →2065 年	
石動	3,469	3,127	2,817	2,537	-2,481 (-39.3%)	-3,778 (-59.8%)	
南谷	390	343	305	272	-392 (-46.8%)	-564 (-67.4%)	
埴生	2,808	2,573	2,343	2,119	-1,255 (-29.2%)	-2,184 (-50.8%)	
松沢	1,861	1,715	1,577	1,437	-842 (-29.5%)	-1,420 (-49.7%)	
正得	964	890	817	744	-397 (-27.7%)	-691 (-48.2%)	
荒川	1,238	1,136	1,036	936	-621 (-31.6%)	-1,025 (-52.3%)	
子撫	605	552	502	452	-432 (-39.4%)	-646 (-58.9%)	
宮島	238	211	188	168	-233 (-46.1%)	-336 (-66.6%)	
北蟹谷	702	630	566	512	-573 (-42.4%)	-841 (-62.2%)	
若林	936	855	779	704	-475 (-31.9%)	-785 (-52.7%)	
津沢	1,698	1,568	1,442	1,314	-811 (-30.6%)	-1,333 (-50.4%)	
水島	1,017	920	831	748	-687 (-37.8%)	-1,069 (-58.8%)	
藪波	1,181	1,084	989	894	-665 (-34.1%)	-1,058 (-54.2%)	
東蟹谷	811	741	678	613	-486 (-35.3%)	-762 (-55.4%)	
南部	271	250	230	209	-161 (-35.4%)	-246 (-54.1%)	
小矢部市	18,188	16,594	15,100	13,659	-10,511 (-34.6%)	-16,740 (-55.1%)	

※平成 27 年の地区別人口は、平成 27 年 10 月 1 日現在の人口です。

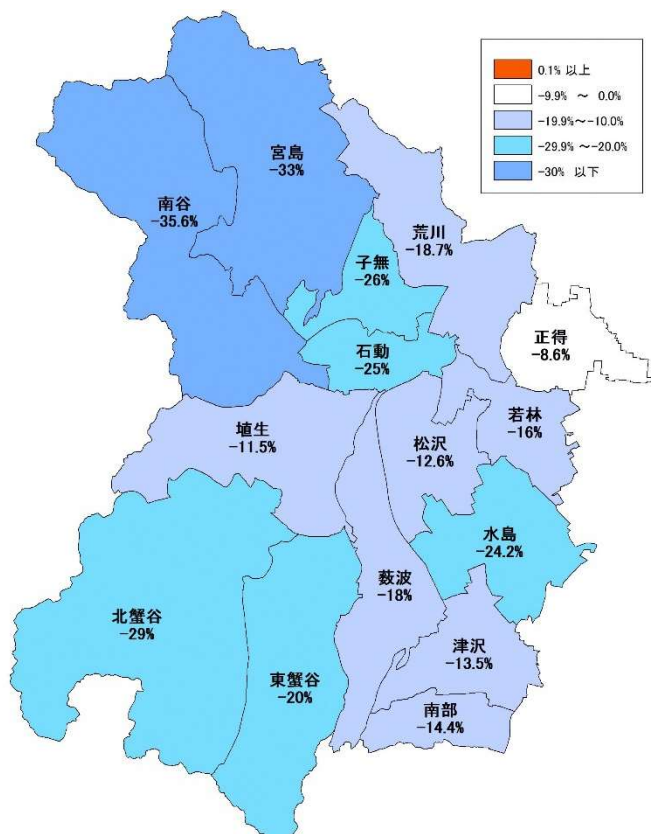
※推計人口は小数点第 1 位を四捨五入しました。したがって、地区別推計人口の合計値が小矢部市全体の推計人口の値と異なる場合や超える場合があります。

■小矢部市の地区別推計人口（令和 27 年（2045 年））



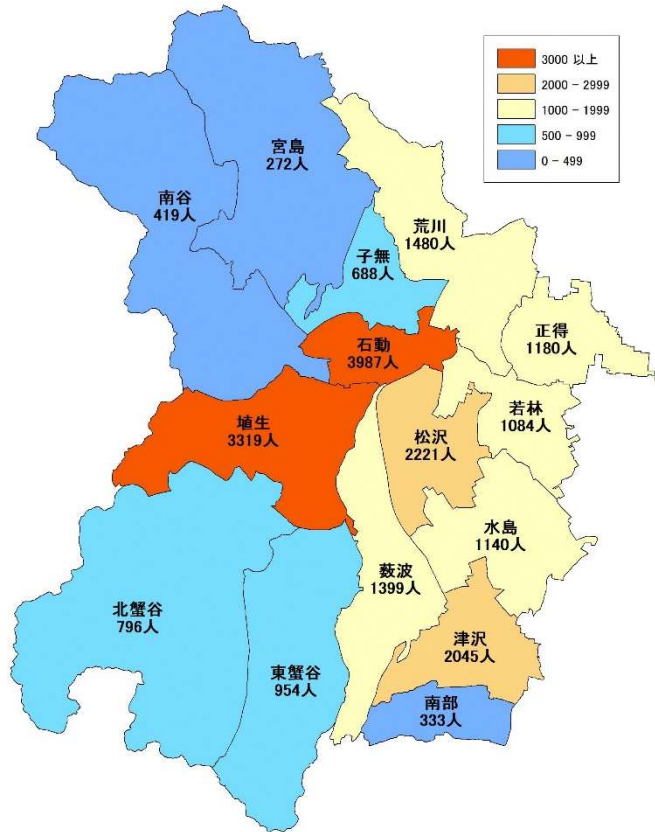
※小矢部市独自推計

■小矢部市の地区別人口増減率（平成 27 年（2015 年）～令和 27 年（2045 年））※小矢部市独自推計



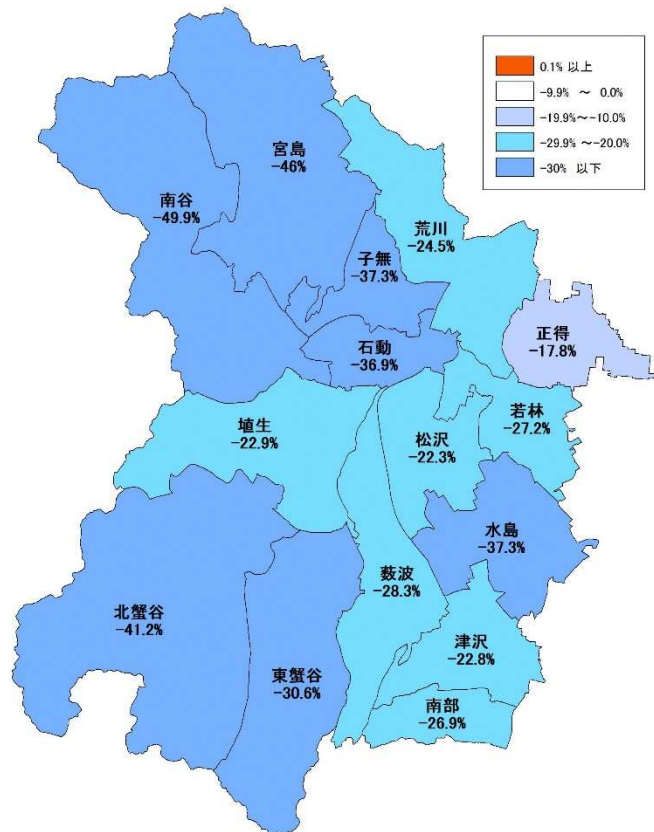
※小矢部市独自推計

■小矢部市の地区別推計人口（令和 47 年（2065 年））※小矢部市独自推計



※小矢部市独自推計

■小矢部市の地区別人口増減率（平成 27 年（2015 年）～令和 47 年（2065 年））※小矢部市独自推計

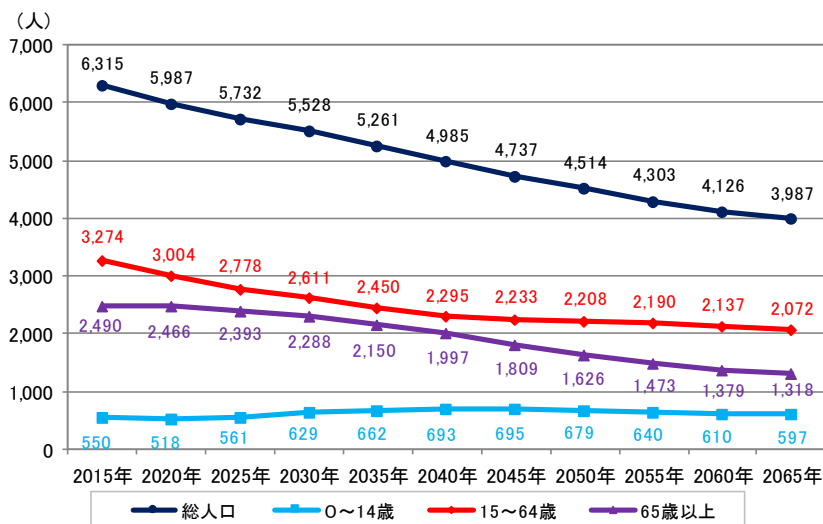


※小矢部市独自推計

③ 地区別推計人口

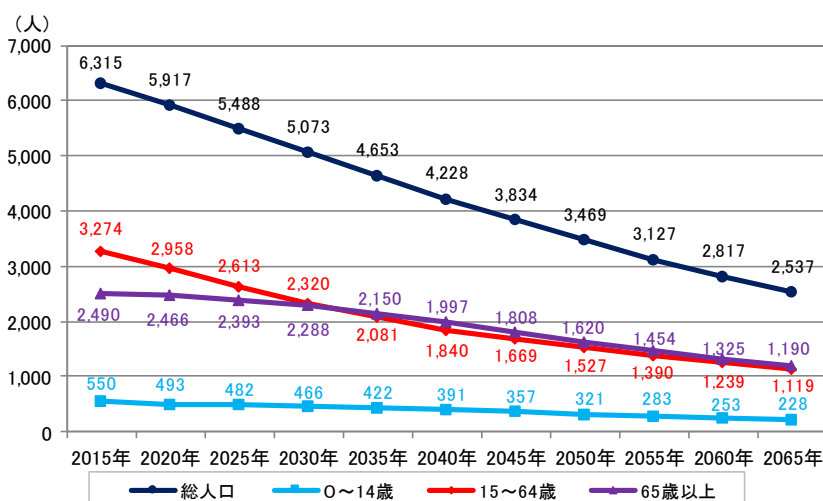
■石動地区推計人口

小矢部市独自推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

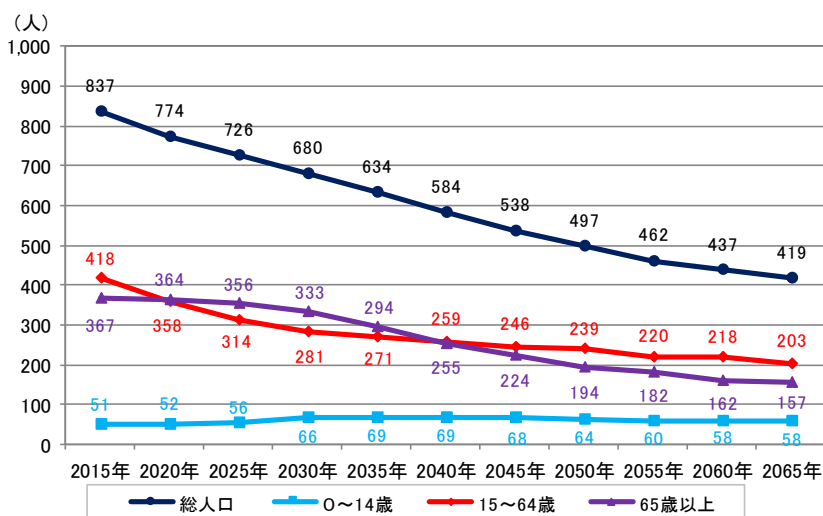
社人研推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

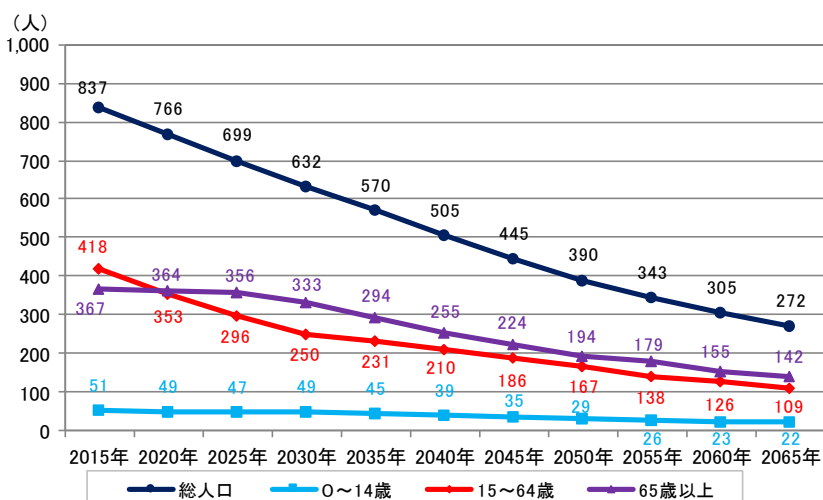
■南谷地区推計人口

小矢部市独自推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

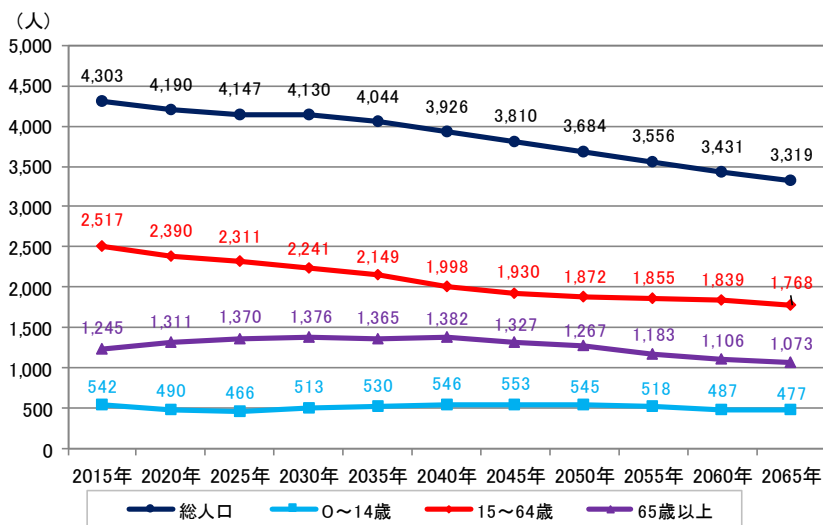
社人研推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

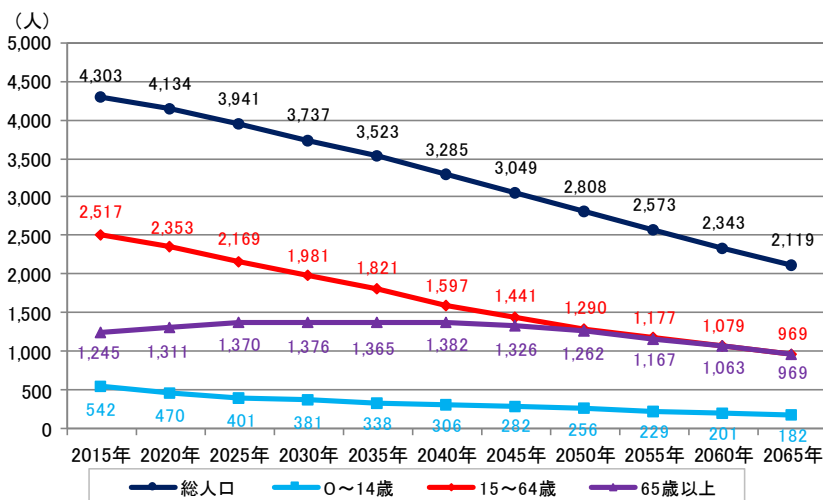
■ 植生地区推計人口

小矢部市独自推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

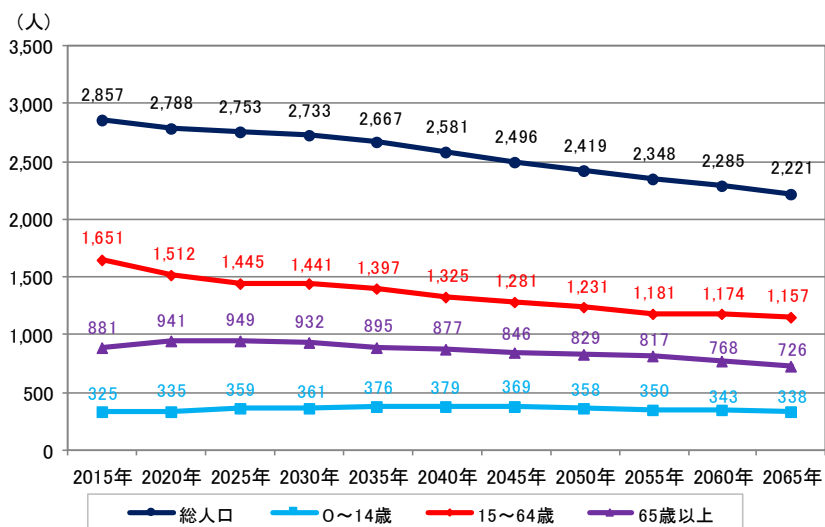
社人研推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

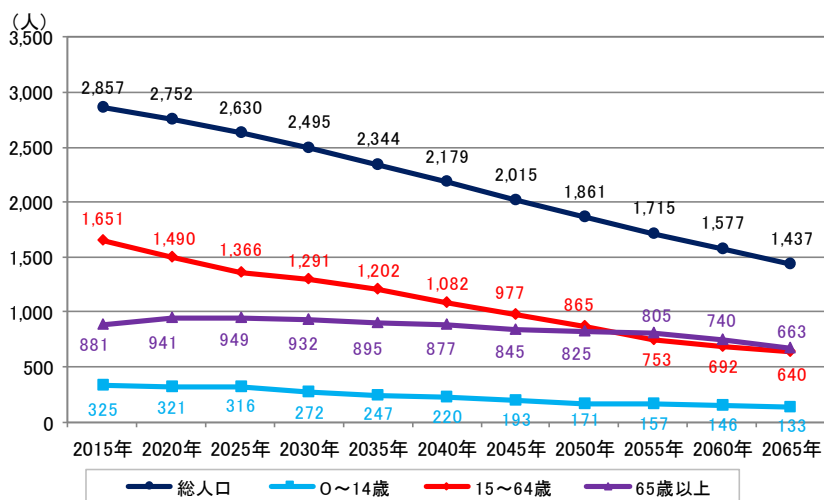
■松沢地区推計人口

小矢部市独自推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

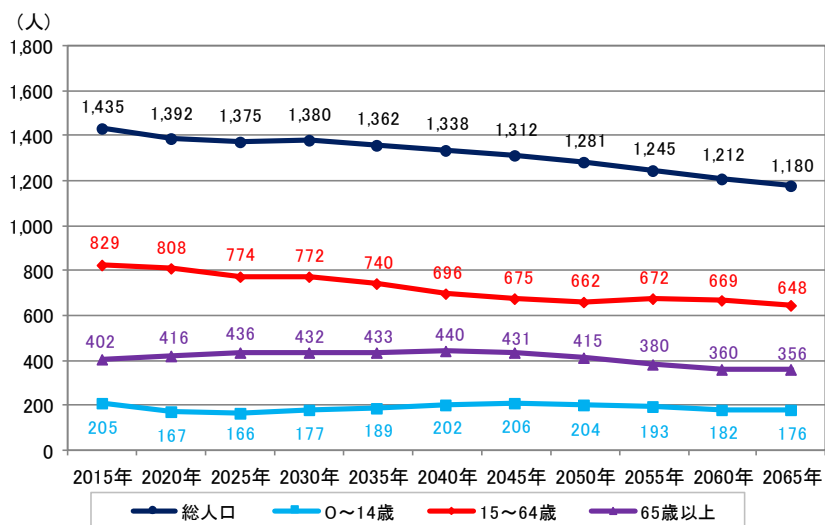
社人研推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

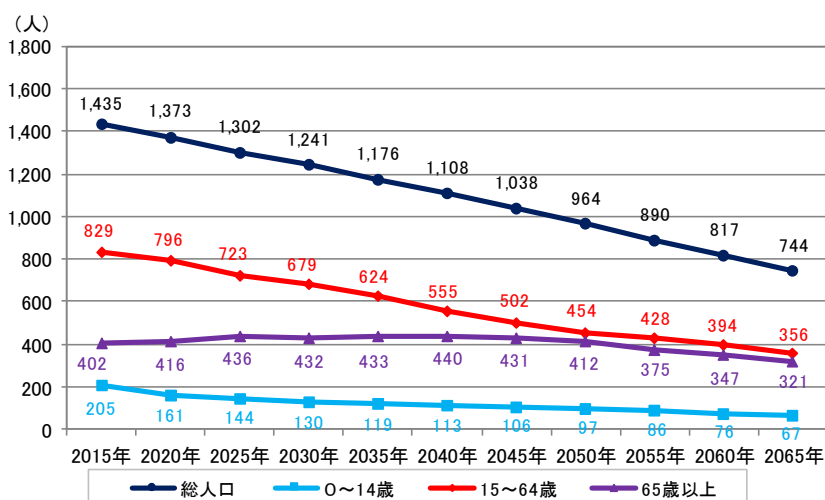
■正得地区推計人口

小矢部市独自推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

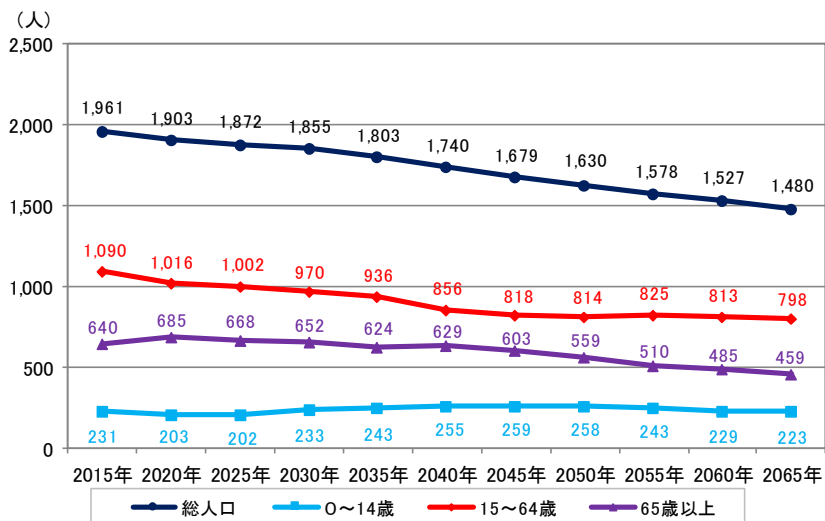
社人研推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

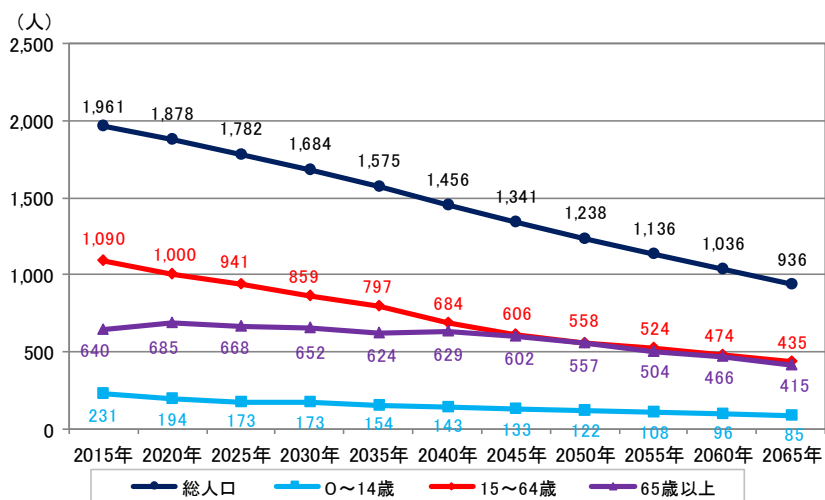
■ 荒川地区推計人口

小矢部市独自推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

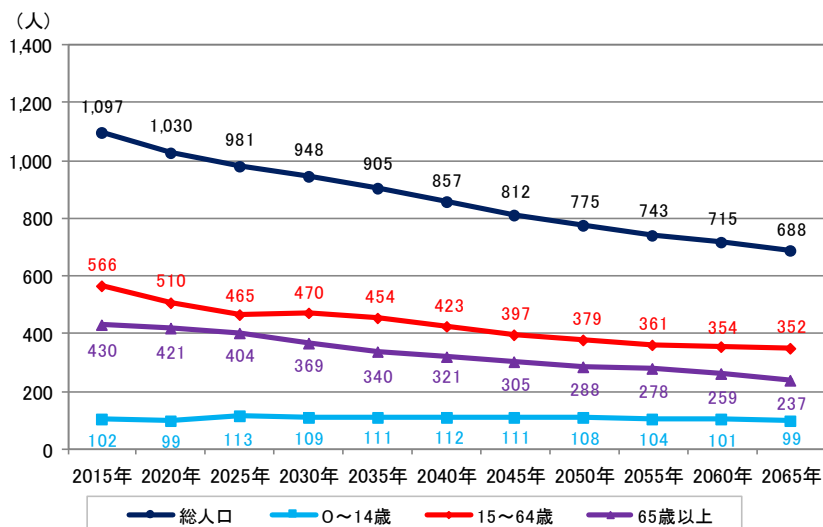
社人研推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

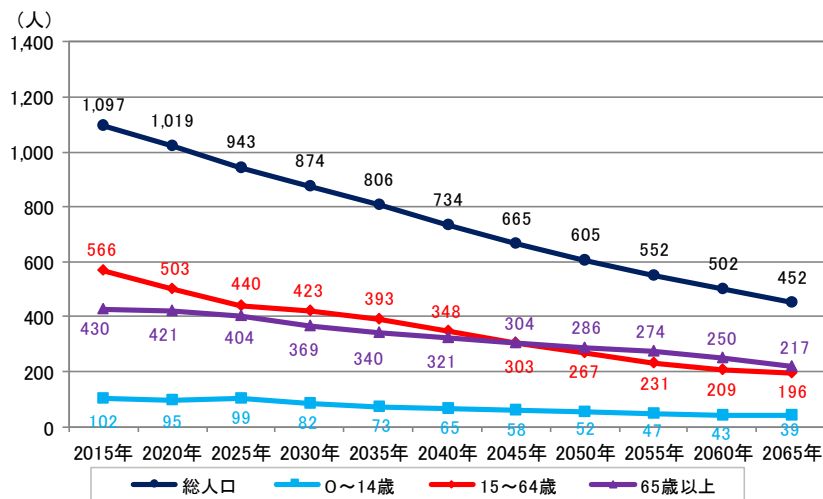
■子撫地区推計人口

小矢部市独自推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

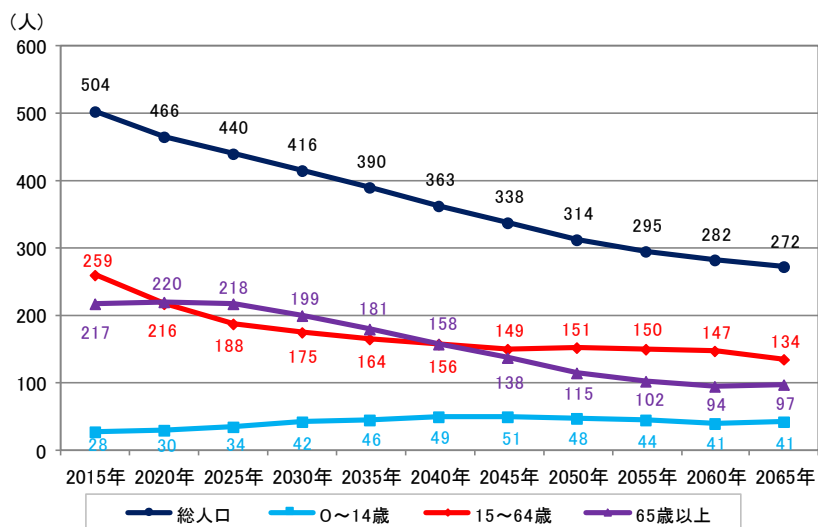
社人研推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

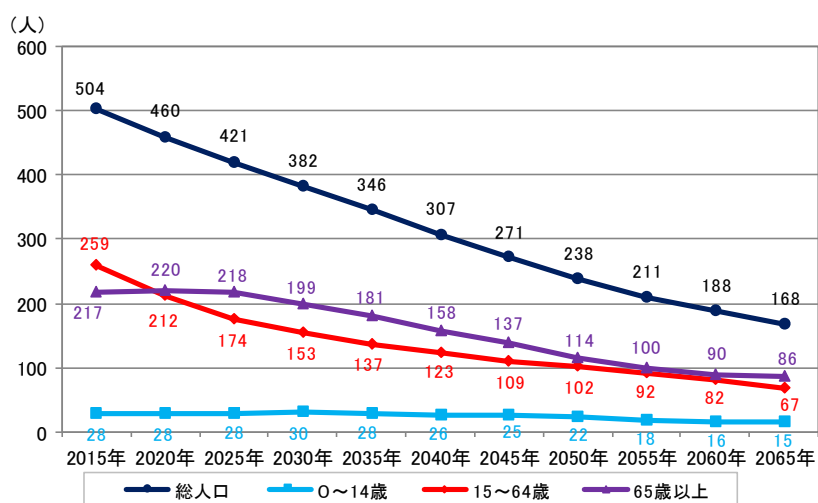
■宮島地区推計人口

小矢部市独自推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

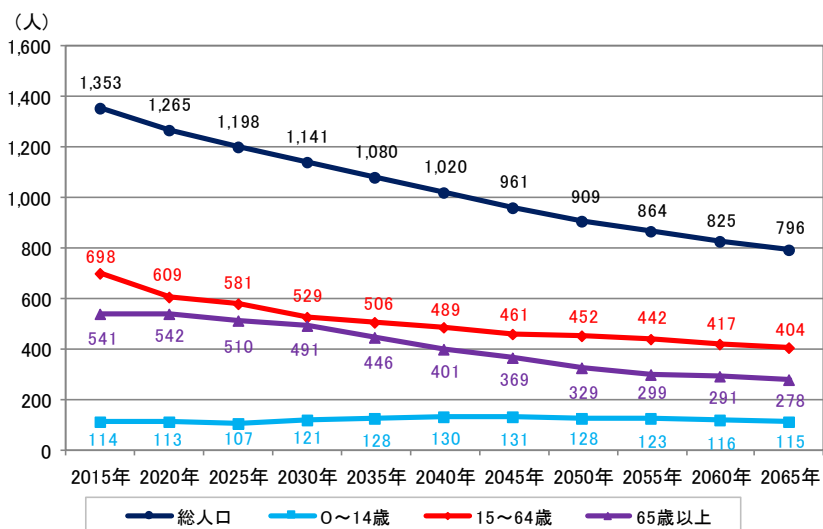
社人研推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

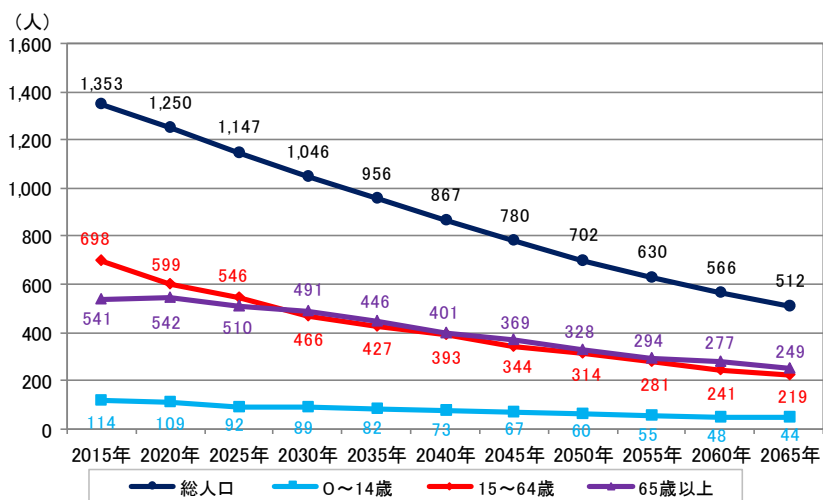
■北蟹谷地区推計人口

小矢部市独自推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

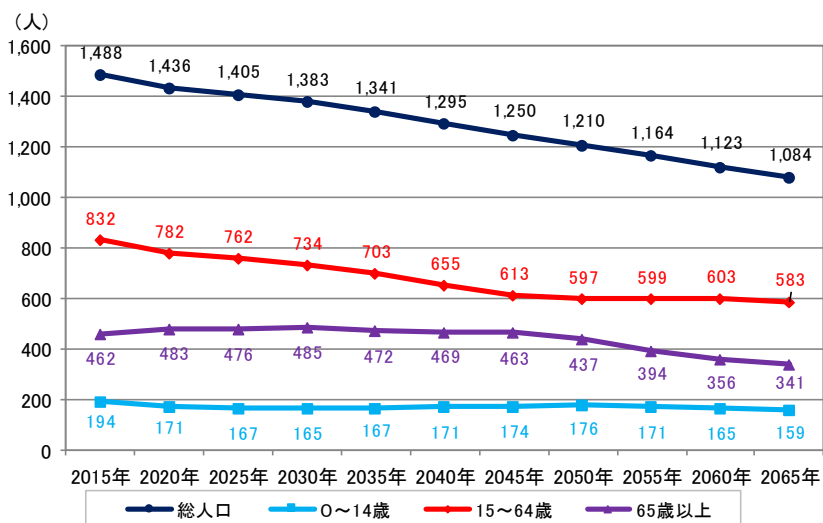
社人研推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

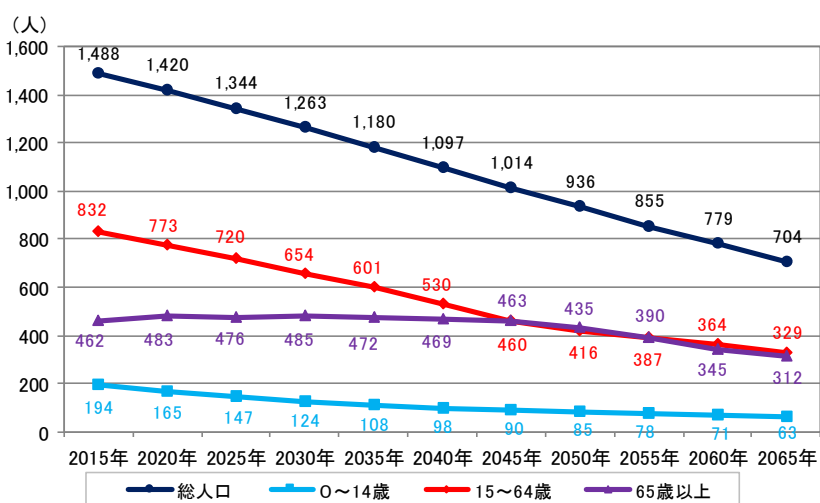
■若林地区推計人口

小矢部市独自推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

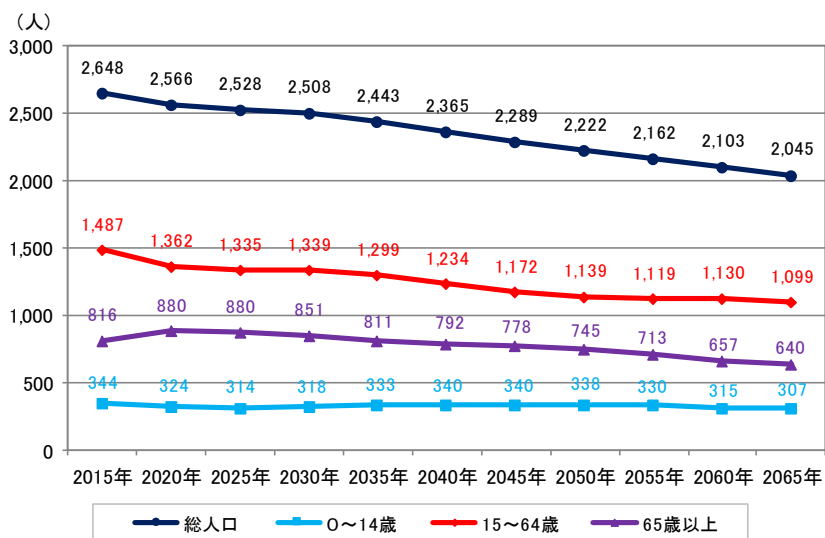
社人研推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

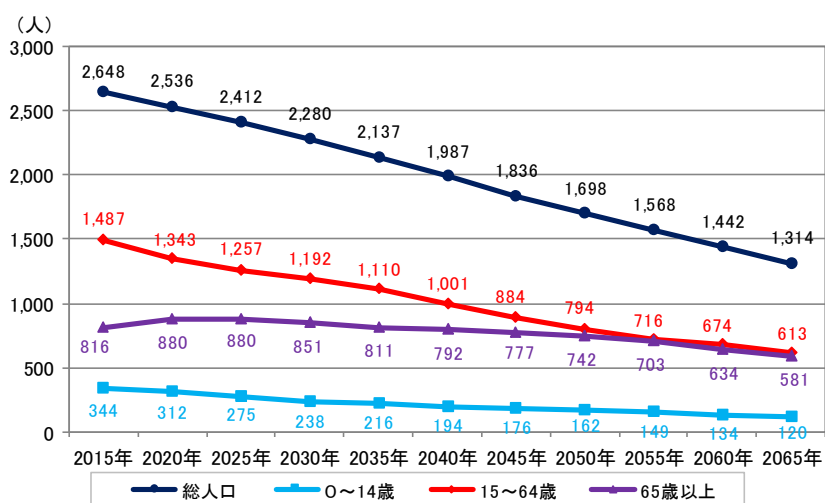
■津沢地区推計人口

小矢部市独自推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

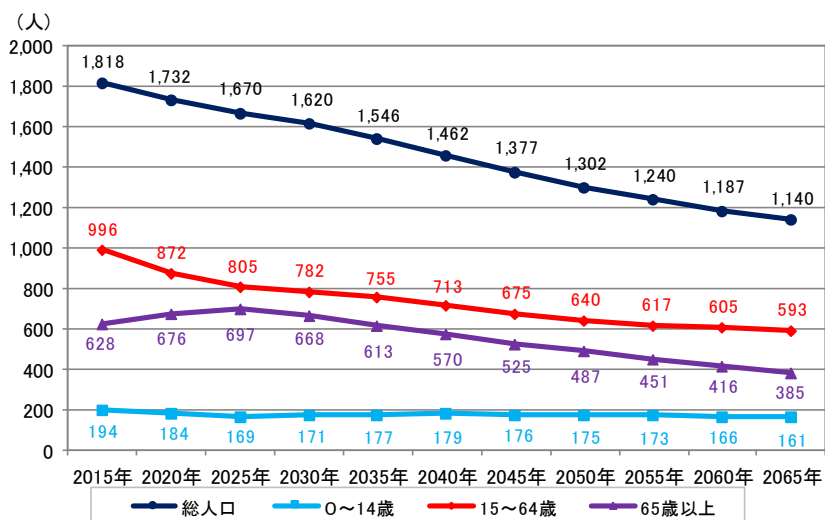
社人研推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

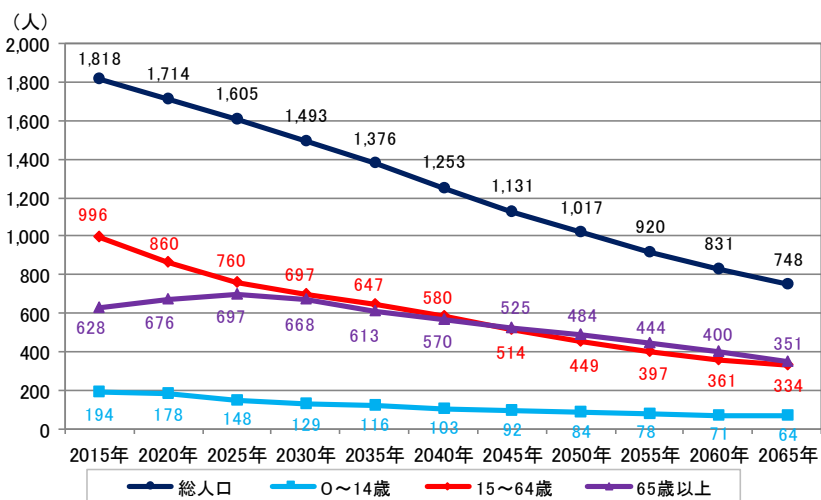
■水島地区推計人口

小矢部市独自推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

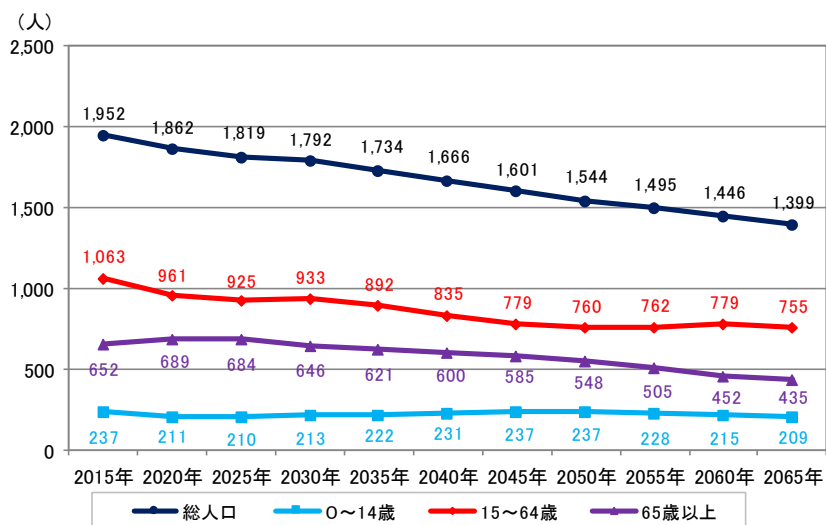
社人研推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

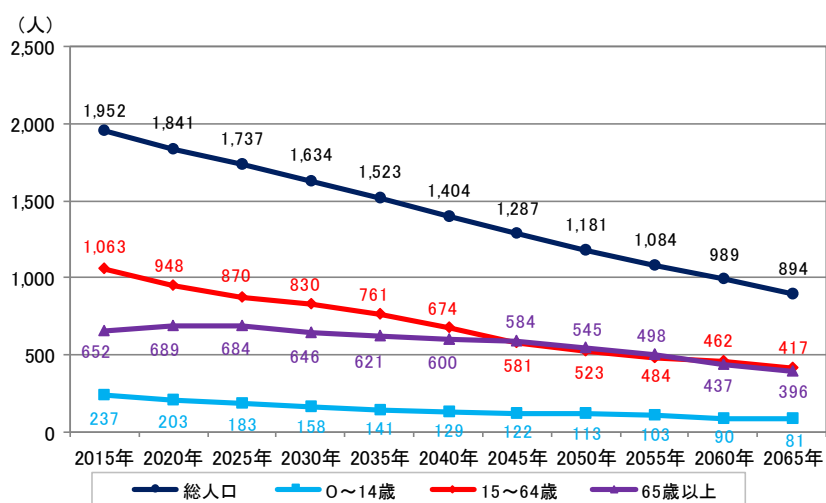
■ 藪波地区推計人口

小矢部市独自推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

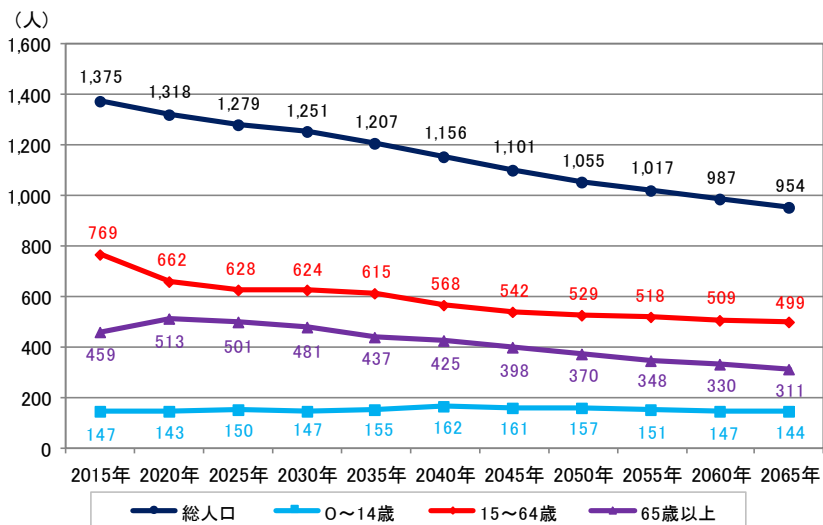
社人研推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

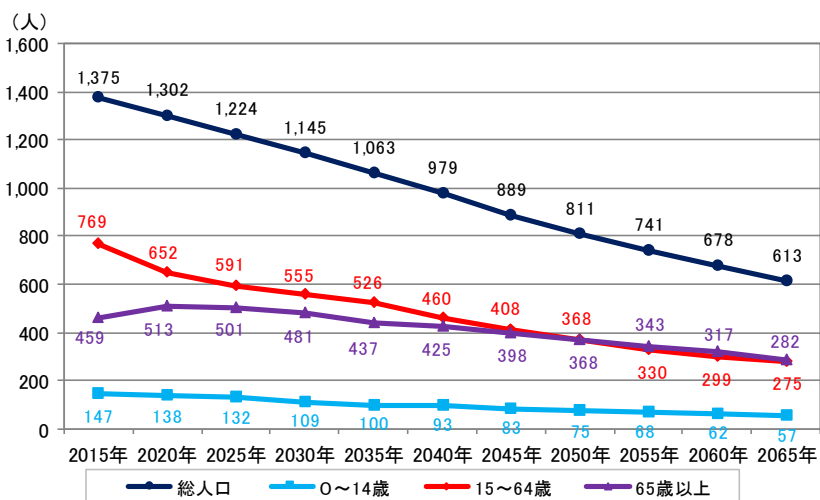
■東蟹谷地区推計人口

小矢部市独自推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

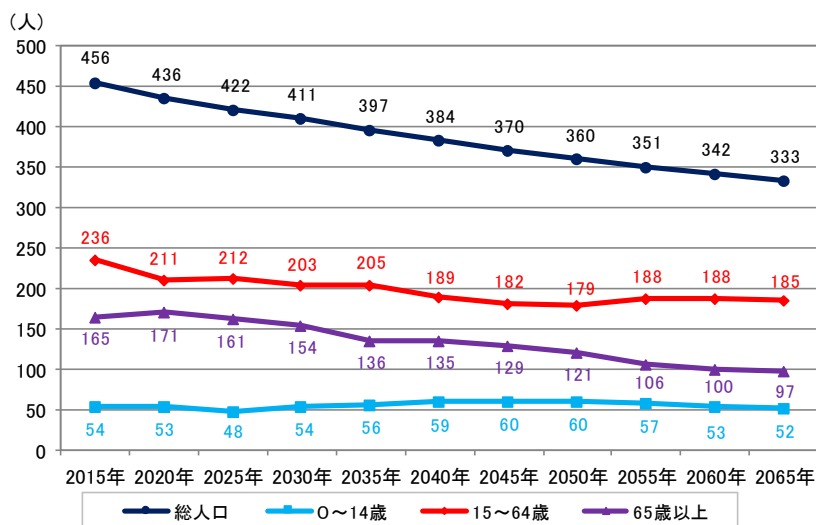
社人研推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

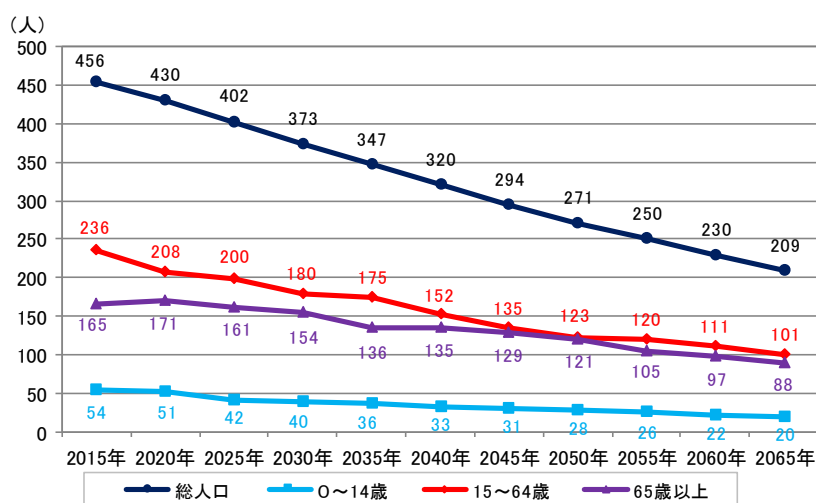
■南部地区推計人口

小矢部市独自推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。

社人研推計



※推計人口は小数点第1位を四捨五入しました。したがって、年齢区分別推計人口の合計値が総推計人口の値とならない場合や超える場合があります。